Ⅲ　有識者ヒアリング編

Ⅲ－１　調査実施概要

（１）調査対象

■ 生涯学習に特に知見を持つ有識者、さらに生涯学習ユーザー側にたった知見を有する方、地域メディアなど幅広い方々から意見聴取した。

（２）調査方法

■ 個別に面接聴取した。

（３）ヒアリング対象

	種　別	所　属	協力者	備考
1	高齢者団体	（一社） 札幌市老人クラブ連合会	● 小林 恒男　氏 （常任理事・事務局長） ● 竹内　伸明　氏 （事務局次長）	
2	地域メディア	ＦＭ三角山放送局 （株式会社らむれす）	杉澤 洋輝　氏 （代表取締役）	
3	社会人教育	北海道立 札幌高等技術専門学院	● 大野　隆明 氏 （能力開発総合センター長） ● 佐藤　修 氏 （訓練管理課長）	
4	有識者	株式会社 石塚計画デザイン事務所	● 石塚　雅明　氏 （顧問）	さっぽろ市民カレッジ企画委員
5	有識者	－	● 臼井　栄三　氏 （北海道教育大学岩見沢校非常勤講師）	札幌市生涯学習推進検討会議委員

（４）調査時期

■ 2019年（平成31年）3月8日～3月16日の間に暫時実施した。

（５）主なヒアリング項目

■ 生涯学習推進における優先課題とは何か
■ 生涯学習推進における「地域・市民ニーズ」対応として重視すべきこと
■ 生涯学習推進に関してのICT活用の意義と課題
■ 生涯学習における行政支援の在り方
■ 札幌市が参考とすべき国内外の先進的取組
■ その他

Ⅲ－２　ヒアリング内容

（1）高齢者の視点

対象	（一社） 札幌市老人クラブ連合会	協力者	小林 恒男　氏　（常任理事・事務局長） 竹内 伸明　氏　（事務局次長）	聴取日	平成31年3月8日
概要	●一般社団法人で国と札幌市から補助を受けながら運営する各地域老人クラブの連合体。 ●「健康・友愛・奉仕」の精神を基本として、健康づくりや趣味・文化・教養など、生活を豊かにする活動を行っている。 ●札幌の連合会に所属するクラブ数は388、会員数で24,000人。平均年齢80歳 ●老人クラブは70歳過ぎから入会が始まるが、実際は75歳以降の入会が主である。高年齢のため在籍期間は短く、新規入会数の増加よりも退会者が上回る結果、会員数は年々減少している。				

1	生涯学習推進における考え方、課題	□ 札幌市の委託事業として50歳以上の札幌市民で地域貢献の意識のある人を対象とした《札幌シニア大学》を運営している。 □ 定員は、１学年80名の２年制で総計160名。講座数は50で、このうち10講座を公開講座にしている。 □ 学習内容は、地域の社会活動を促進する基礎講座（リーダーシップ、コミュニケーション等）及び実践講座、生きがい等向上の講座（健康づくり、文化教養、生きがいづくり）が中心である。 □ 応募申し込みから連絡等すべてを「紙ベース」で対応し、インターネット等の活用はしていない。 □ 生涯学習への考え方は、知識・教養の「座学」を生涯学習という意識が強く、日常実施している諸活動を生涯学習という捉え方はしていない。札幌シニア大学はもちろん、老人クラブの諸活動も広義の生涯学習と考える。 □ 高齢者の生涯学習推進においては老人クラブの存在は重要である。 □ 現在、札幌市は一単位の老人クラブ会員数30人以上を補助対象としている。確かに、以前は一単位会員数が100人を超すクラブが多くあった。しかし、最近はライフスタイルの多様化に伴い、加入率が低下し一単位の会員数が３０人以下のところが主になってきている。札幌市には、生涯学習推進のためにも現状を理解し、その時代にあった補助制度等に改善してほしい。
2	地域・市民ニーズへの対応として重視すべきこと	□ 老人クラブへの新規勧誘において、一人ひとりを直接、老人クラブに勧誘する以外に、少集団の人達が楽しんでいるスポーツや学習などの同好会やサークルをそのまま老人クラブへ入会させる新しい勧誘方法を考えている。（すでに実績あり） □ これは、既存の同好会やサークルを老人クラブに引き込むことで、入会のハードルを低くしていると考えている。さらに、３０人以下の少数のクラブにも連合会から補助金（特典）を出すことにしている。 □ このようなきめ細やかな活動の実情を把握した補助等の支援策に期待する。 **《成功事例》** □ 横浜市都筑区老人クラブ連合会（３地区、59クラブ、会員4,128人）は高齢者の外出のきっかけをつくり、閉じこもりを防ぐ集いの場としての“居場所・たまり場づくり”の取り組みとして、「老人クラブ版サロン」の積極的な立ち上げを進めている。自分のクラブのみを範囲とするサロン、近隣15クラブ連合型サロン、自治会やケアプラザと連携したサロンなど、地域によってさまざまな形のサロンが誕生している。

3	生涯学習における ＩＣＴ活用等について	□ ２年前にホームページを開設。それ以外は一切ネットの活用はしていない。 □ 平均年齢８０歳の現状では、ネットの設備投資は効率が悪いと考えるが、団塊世代が会員になってくる頃には、それなりの対応が必要になってくると考える。 ＜将来において＞ □ 各クラブの活動内容を写真や動画などを使ったコンテンツを作成し、札幌市や区民センター、ちえりあ等とネットワークで結び閲覧できるようにすると活動内容がわかりやすくなると考える。 □ 札幌シニア大学の公開講座に関して、ユーチューブを使って２４，０００人の老人クラブ会員に動画の配信を検討してみたいと考える。
4	生涯学習における行政支援等について	□ 老人クラブの現状を理解し、その時代にあった補助制度等の改善が必要。
5	その他	□ 老人クラブの募集は、各老人クラブにおいて「呼びかけ」が中心、他に町内会の回覧、札幌市各区役所のＨＰなど。 □ 札幌シニア大学の募集は、ポスター・チラシを作成し、各区役所、まちづくりセンター、市役所高齢福祉課、札幌市老人クラブ連合会事務局、各老人福祉センター等で配付。 □ また、ホームページでも行っている。 □ 現在は行政機関が中心だが、民間との連携によるＰＲ活動も効果的と考える。 （例：大型スーパー、ドラッグストアー、コンビニ等）

（2） 地域メディアの視点

対象	ＦＭ三角山放送局 （株式会社らむれす）	協力者	杉澤 洋輝　氏　（代表取締役）	聴取日	平成31年3月8日
概要	● 1998年４月１日開局。中央区、西区の一部をカバーする地域ＦＭ局 ● 現在、パーソナリティは120～130人で、中高年を中心とした全員が市民ボランティア・パーソナリティ。これは県域局のパーソナリティ、アナウンサーの多くが原稿を読むことが中心で面白くなく、むしろ市井の人たちの方が面白いのではとの着眼からスタートした。 ● 現在の市民ボランティア・パーソナリティの大半は、自主参加である。 ● 番組制作、運営に関しては、構成・演出・出演・選曲までも自らがこなしており、またこの人達が、休まず「来る・話す・帰る」を繰り返してくれていることで管理なしの運営となっている。 ●この「市民参加」の仕組みを構築・維持してきたことが「三角山放送局の最大の発明」と考えている。				

1	生涯学習推進における考え方、課題	□ 「生きている以上は学習だ ―特別なものではない」という考え方から、あえて生涯学習という名称は使ってはいないが番組の内容は、大半が生涯学習の内容になっているといっても過言ではない。 □ 歴史（屯田兵）、医学、法律、子育て、外国人・外国語、ＬＧＢＴ、防災・防犯など多岐にわたっており、まさに「地域・市民ニーズがそのまま番組」となっている。≪各パーソナリティの専門性の高さからか？よく三角山さんは「番組が固い」といわれるようだ。 （次頁へ続く）

1	生涯学習推進における考え方、課題	《過去に放送大学とのコラボレーションの実績》 ● 放送大学の学生フィールドワークとして実施した。地域医療、地域福祉などをテーマに学生３～４人のグループが地域で活躍する医師・看護師などに放送スタジオでインタビュー。 ● 番組は放送され、学生はその後レポート・冊子にまとめる作業を経てフィールドワーク授業が終了。放送大学とのコラボは、トップが代わり方針変更で中止となったとのこと。 ● 今後も、このような教育機関とのコレボレーション型の取組は大いに実施可能である。
2	地域・市民ニーズへの対応として重視すべきこと	□ 地域の人たちの学びたいという意識は高い。しかし、生涯学習という括りで参加させようとすること自体が障壁を高くしているのではないか。 □ 三角山放送局は「生きている以上は学習―特別なものではない」とし、地域・札幌市民の自主参加で番組を制作・発信している。 □ 一方、放送大学の例のように、教育機関などとのコラボでより専門性の高い番組も制作していきたいという思いもある。 □ 行政も市民ニーズを捉える以前に、しっかりした「生涯教育への方針と仕組みづくり」の積み重ねが大切と考える。
3	生涯学習におけるＩＣＴ活用等について	□ 全国５番目の早さでインターネット（同時放送）に挑戦した。現在は、リスラジ（インターネット放送網）を通じ、全国どこへでも発信は可能。 □ また、「どこでもスタジオ」を目標にテレワークのラジオ版スタジオの実現を目指している。在宅で生放送に出演する仕組みで、外出が難しい、体が悪い、寝たきりの人でもパーソナリティとして放送に参加ができるようになる。これはパブリックアクセスの確立の一歩となる。　特に事故、災害時に役立つのではないか。テレワーク版ラジオの活用は、三角山放送局が発明した「しくみ」があって初めて可能になると。（※２年ほど実証実験を行っていたが、現在のネット回線では不安定で休止中）
4	生涯学習推進における行政支援等について	□ 札幌市は地域メディア（ＦＭ三角山放送局）をよく理解していないし、してくれない。信頼されていない感じを受けている。説明に行っても、７局一緒に来てほしいといわれ話を聞いてくれない。１局だけの話を聞くわけにはいかないのだろうが。（愚痴） □ しかし、三角山放送局は、生涯学習でも防災・防犯でもかなりの活用ができ、ほかの施設とのネットワーク化も図れるのではないかと思う
5	その他	□ 特になし

（3） 社会人教育の視点

対象	北海道立 札幌技術専門学院	協力者	大野　隆明 氏（能力開発総合センター長） 佐藤　修 氏（訓練管理課長）	聴取日	平成31年3月15日
概要	● 訓練の種類には施設内訓練と施設外訓練がある。 【施設内訓練】 ・２年制で定員は200名。精密機械科・金属加工科・電子印刷科・建築技術科・建築設備科の５科目。 ・約９割は高卒で、あとの１割は19歳～60歳代までの一般社会人が主。大学を退学、会社を退職して入学してくる方などさまざま。 ・この１割の社会人は、転職者、後継者・指導者で資格取得やスキルアップなどが目的であり、所謂“学び直し”の範疇に入る。 【施設外訓練】 ・ほぼ100%はハローワーク経由で来院。再就職を目的とした一般離職者、障害者、母子家庭の母親など。ここ10年の傾向として女性が多く、７割～８割が医療、保育、介護系などが多い。 ・訓練期間は短くて２ヶ月～長くて24ヶ月。訓練科目は120～130科目で毎年ニーズ調査（ヒアリング先：市町村、商工会議所、ハローワークなど）を実施し、科目の内容を決めている。年間の訓練定員はで2,164名（H30年度）。 ● 訓練課程は「緊急再就職訓練（3～6ヶ月）」・「長期高度人材育成コース（2年）」・「デュアルシステム訓練（4ヶ月）」・「障害者委託訓練（3ヶ月～12ヶ月）」・「能力開発セミナー（2日間）」の６課程に大別される。※デュアルシステム訓練＝座学3ヶ月＋企業実習1ヶ月 ● 訓練は短期間でも長期間でも「正社員になるための国家資格か民間資格取得」を目指す。「緊急再就職訓練」では、パソコン、介護、経理、販売、医療事務などが主で、パソコン中級、エクセル表計算、ワープロ技師２～３級、簿記２～３級などの民間資格が中心になっている。 ● 「長期高度人材育成コース」は、高度な各種資格や国家資格取得が目的で正社員を目指す。転職、スキルアップが多く、介護福祉士、医療事務１級・診療報酬請求事務能力認定・診療情報管理士、保育士などの資格取得が中心。 ● 「能力開発セミナー」は、在職者のスキルアップのための資格試験対策アドバイスが主な訓練となる。例えば水道管理技術者が消防設備士（甲４種）の資格を取得するなど。				

1	生涯学習推進における考え方、課題	□ 【施設外訓練】の多くは、仕事上で必要な知識・技能・資格取得という内容からして生涯学習のひとつといえるが、学院は生涯学習とは認識していない。 □ 将来的に持っている経営資源を使って技術専門版の札幌市民を対象にした市民大学（仮）のような生涯学習サービスを行う可能性に関しては、今は考えられないとのこと。
2	地域・市民ニーズへの対応として重視すべきこと	□ 《社会人の学び直し》分野では、現状は「ハローワーク」経由の失業者対策、再就職対策の性格が強く、それ以上に門戸を広げることは困難。 □ 技専の先生たちがもつスキルの「有効性＝資源」は認めるものの、幅広い市民に向けた取組は考えにくい。
3	生涯学習におけるＩＣＴ活用等について	□ 現在は、「技専の学院案内」しか展開できていない。 □ 先生によるブログやＳＮＳを使っての発信、（例えば、ちょっとした車のキズの修理の仕方など、学院の先生ならではの“さすがの知恵”のようなこと）についても、興味はあるが学院のスキルからみて、持続可能性を考慮すると困難。
4	生涯学習における行政支援等について	□ 学院の役割が、就業対策、社員のスキル向上などへの貢献にあり、その点では生涯学習の一翼を担うが、札幌市、北海道との所謂「生涯学習」に関する連携などは想定されていない。（※大学などとは異なる位置づけ）、
5	その他	□ 特になし

（4） 有識者の視点

対象	株式会社 石塚計画デザイン事務所	協力者	石塚　雅明　氏（顧問） ※さっぽろ市民カレッジ企画委員	聴取日	平成31年3月18日

提起

- **一つ目**はいくら情報発信をしても、それが現役世代に必要な情報でなければ届かない。まずは、学習ニーズにあった生涯学習プログラムを提供する必要がある。
- そのためには、例えば現役世代を年代別にターゲット分類し少人数のグループインタビューをつうじて旬な関心事、テーマ、意識などから学習ニーズを把握するのも有効かもしれない。
- そこまでしなくても、現在の講座体系のままでも工夫ができると思う。ちえりあの生涯学習には３つの系（テーマ）があるとの考えで構成されている。
  ①主に高齢者を対象とした文化・教養系　②まちづくり系　③産業ビジネス系
- まちづくり系と産業ビジネス系は現役世代も学ぶ価値のあるものが企画されている。また、文化・教養系の講座は、まちづくり系や産業ビジネス系に行くまでの入口・ポータルの講座として関心を拡げる機能がある。
- これらの系に基づいた講座群と、現役世代の年代別分類をマトリックスにして、現役世代の学習ニーズを仮定し、ニーズに合致する可能性のある講座をピックアップして、「現役世代にオススメ講座」として情報発信することが考えられる。

- **二つ目**は、現役世代が限られた時間を生涯学習に割くことができるかどうか。また、このハードルを低くする試みがなされているか。
- たとえば受講回数がある。通常、複数回受講するプログラムが一般的。
  ３回夜の決まった曜日・時間を空けて参加する大変さを考えると、入口になるようなお試し講座がもっとあって良いのでは。１回２時間程度でイベントに参加するような気軽な気持ちで参加でき、内容が自分の学習ニーズにマッチングしていると感じれば、その後本格コースへ。
- 講座内容と学習ニーズがマッチングしていれば、時間を割くことに問題はない。限られた時間を割く価値があるかどうかを判断できる機会があることは意義がある。これを、「現役世代のためのオタメシ講座」として情報発信することが考えられる。

- **三つ目**は、現役世代が、そもそも「生涯教育」情報にアクセスするモチベーションがあるのかどうか。
- 現役世代は、仕事などに追われるライフスタイルの中で、普段から生涯学習ニーズはが明確化しておらず、潜在化していて自覚できていないのかもしれない。
- そもそも講座を受講したいという動機で情報アクセスすることはあまりないと感じているのでは。学ぶことを入口として入るのではなく、別の入口があって学ぶ機会があるということに気づき行き着く。自分が生きる上で、また仕事の上で関心のあるキーワードをインターネットで検索しているうちに、それに関連して有償・無償で学べる場があることに気づく、というのが一般的では。
- そのために、こちらから情報を編集して提供する仕組みを作る必要がある。たとえば、大型書店では扱う書籍量が多すぎてなかなか読みたい本にたどり着かない。何を読んでいいかわからないという状況になりうる。
- そのなかで漠然と本を読んでみたいというニーズに応えるために、著名人がチョイスした本棚、というコーナーを作り、ナビゲートしている例がある。これは生涯学習にも使える。札幌の現役世代のターゲット層に支持リスペクトされるカリスマ・著名人が目利きとして、生涯学習のなかからいくつかピックアップしてその魅力を伝える。そのひととの関係性のなかで情報に接することで、自分の生涯教育に対する潜在ニーズに気づくきっかけとなりうる。

- 最後に**四つ目**。生涯学習情報にたどり着くために適切なアクセスルートが構築されているか。すべての生涯学習情報が統合されたプラットフォームがあったとしても、そこへのアクセスをダイレクト伸ばしていくことは難しい。世の中は情報があふれかえっているので、どのように知ってほしい情報にいきわたるかについてもらえるか。

（次頁へ続く）

提起	□ 生涯学習に関する情報に限らず、日々様々な情報に接している現役世代にとって、いかに彼らの日ごろの情報アクセスの流れに乗れるか、が適切な生涯学習情報の発信に繋がると考える。 □ どういったキーワードで検索すると学習の場にいきつくのか。そもそも講座を受講したいという入口で情報アクセスすることはあまりないと感じている。自分が生きる上で、また仕事の上で必要と感じたキーワードをインターネットで検索しているうちに、有償・無償で学べる場があることに気づく、というのが一般的では。 □ 現役世代が日常、情報にアクセスするルートに、生涯教育プラットフォームに繋げていくことができるような仕掛けを工夫するべき。 □ たとえば、現役世代が日ごろ出入りしている場所、グループ、団体、メディアやサイトなどと、統合プラットフォームとのフックを作ることが有効。プラットフォームはもちろん重要だが、そこに行きつくまでのルート作りが大切。
市民意識調査について	□ アンケートの回収率を見ても、市民が「生涯学習」という言葉を身近に感じていない現状が読み取れる。 □ 市民が生涯学習を身近な関心事として認識していないことが本質的な課題であると考える。一方で、市民の「知りたい」「何かの役に立ちたい」というニーズは必ずあると感じている。 □ 一旦、社会教育行政の枠組みから物事を考える意識をすてて、市民の側の意識に立ち、市民が潜在的に持っていると思われる、知りたい思いや、地域や社会の課題解決へ向けた取組みに関わりたいという思いから考えることで、生涯学習が市民に求められる存在になるような世の中を目指してほしい。

（5） 有識者の視点

対象	北海道教育大学岩見沢校 非常勤講師	協力者	臼井　栄三　氏	聴取日	平成31年3月18日

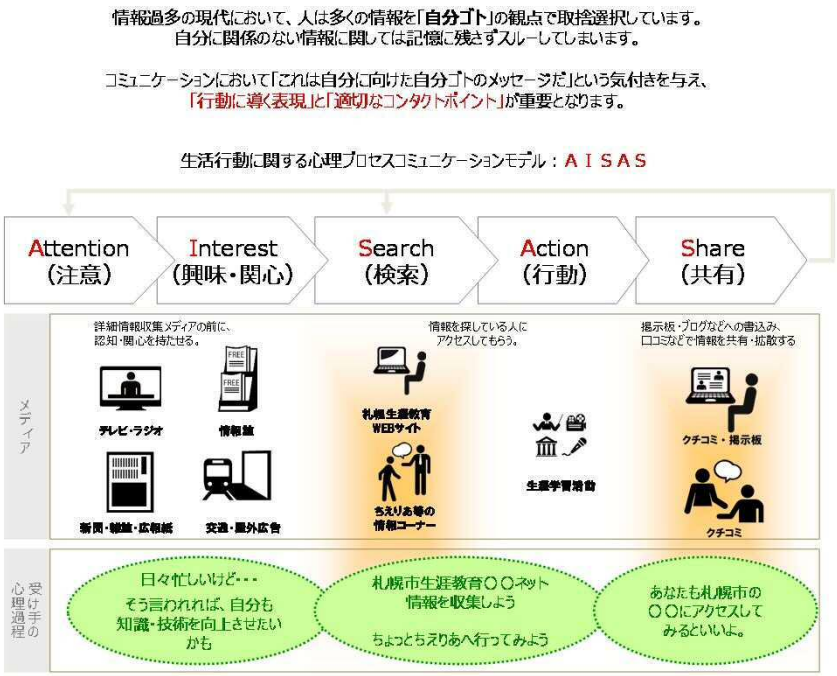
市民意識調査をふまえて

- □ 調査結果を踏まえると、札幌市民が現状で生涯学習に関する情報を摂取する媒体として「広報さっぽろ」などの広報紙に期待をしている一方で、今後の生涯学習に関する情報の在り方については、広報紙の活用に次いで、ネット上での情報交流総合サイト設置を期待していることが分かる。
- □ 年代別にみると、10代～50代は、インターネットを活用した情報発信の仕組みに理解・関心があり、60代以降はパンフレットや広報紙、新聞広告といった紙媒体での情報発信に期待を寄せている。
- □ ＳＮＳに関しては、年齢が若いほど情報活用への期待・関心が高く今後の伸びしろもあるだろう。10代・20代のスコアが目立って高いのも特徴的だ。
- □ 「生涯学習」という言葉が意味する領域は非常に広範囲で、受け手にとってその認識が様々であるのが現状である。20代～60代の現役世代間においても若年者層、中年層、高年齢者層でそれぞれのイメージは異なるし、リタイア世代でもまた違った印象を持っている。
- □ 現役世代は、総じて自己啓発、資格取得など、自己のキャリアアップにつながることを「生涯学習」と考えているが、リタイア世代にとっては、生活を楽しみ、心を豊かにすることが「生涯学習」である。今後、現役世代に情報発信し、生涯学習への積極的参加を促すには、「生涯学習」という言葉だけではなく、アピールしやすく身近に感じられる的確な言葉の開発とその効果的なアピールが必要であると感じている。

提起

- □ 現役世代はインターネット・リテラシーが高く、生涯学習の情報収集先としてインターネットサイトに一定の理解があることが今回の調査結果から見て取れる。しかし、重要なことはインターネット上の情報発信サイトを構築することだけではないと考える。

- □ 情報過多の現代において、人は多くの情報を「自分ゴト」の観点から取捨選択している。
- □ 自分に関係のないと感じられる情報に関してはスルーし、当然ながら記憶にも残さない。
- □ 「生涯学習」に関する情報摂取も然りで、どのようにして現役世代に生涯学習に関する情報が「自分に関係があることだ」「これは自分に向けたメッセージだ」と気づかせるかが重要となる。この気づきが次の行動に繋がっていく。
- □ 消費者行動に関する心理プロセスコミュニケーションモデルに「ＡＩＳＡＳ」というものがある。



（次頁へ続く）

提起	□ 人びとの心理プロセスは、Ａｔｔｅｎｔｉｏｎ（注意）→Ｉｎｔｅｒｅｓｔ（興味・関心）→Ｓｅａｒｃｈ（検索）→Ａｃｔｉｏｎ（行動）→Ｓｈａｒｅ（共有）という形で推移すると考えるモデル。 □ 現役世代に生涯学習を適切に伝え、参加してもらうためには、それぞれのプロセスで効果的な取組を行う必要がある。 □ 注意、興味・関心を引く段階では、「生涯学習」が自分ゴトであることを広い層に気づかせるために、様々な手法を用いて認知・関心を高める。 □ ＯＯＨ広告や、広報紙を中心とした紙メディア、テレビ・ラジオによる情報提供などがあてはまる。 □ ここではまだ、生涯学習が自分ゴト化されていない段階なので、様々なメディアで現役世代に接触することを考えてアプローチすることが重要となる。 □ 広報表現を考える際には、現役世代のペルソナを意識して設計すると良いのではないだろうか。ペルソナとは、サービス・商品の典型的なユーザー像のことで、マーケティング 関連において活用される概念。実際にその人物が実在しているかのように、年齢、性別、居住地、職業、役職、年収、趣味、特技、価値観、家族構成、生い立ち、休日の過ごし方、ライフスタイル……などリアリティのある詳細な情報を設定する。ユーザー像として８類型ほど設定し、それぞれのペルソナに効果がある広報表現を考えると、より効果的ではないか。 □ 「生涯学習」が自分に関係がある、と気づいた現役世代は、検索するなど次の行動に移る。 □ ここで、彼らが求める生涯学習に関する情報を適切に伝えるプラットフォームが必要になる。札幌市内には様々な生涯学習に関する施設があり、それぞれがインターネットを通じて情報発信をしている。これらを整理・統合し、体系的・網羅的に生涯学習情報を得ることができるプラットフォームがあることが理想的である。 □ プラットフォームでは、単純に生涯学習情報を発信するのではなく、たとえば実際の参加者の体験談を中心に発信するなど、生涯学習を身近に感じさせるための一層の工夫が求められるだろう。シンボルキャラクターを立てていくのも効果的と考える。現役世代がプラットフォームに辿りつくルートは様々だが、一度たどり着いた後は、できるだけ生涯学習を自分ゴト化してもらいやすいようにサイト内を思いのままに回遊したくなるような仕組みづくりがされていることが望ましい。 □ 百貨店で言われるシャワー効果(上階にたどり着いたあと下階に降りながら次々と買い物を重ねていく状態)のように、たどりついた人が次から次へと生涯学習情報に接触し、生涯学習の自分ゴト化が進んでいくようになっていけば利用者の裾野は広がっていくのではないか。 □ 統合プラットフォームサイトで生涯学習情報を得た現役世代は、実際に生涯学習を始めることになる。 □ そこで魅力的な体験をすると、インターネットでその体験を共有しようとする。ここでＳＮＳサービスがその仲立ちをすることになる。「Facebook」・「twitter」・「line,Instagram」など、様々なＳＮＳサービスがあり、そのトレンドは常に変化・流動している。現役世代が積極的に情報発信・共有するＳＮＳサービスは何か、その傾向を十分に検討し、情報拡散を後押しする方策を打ち立てることが望ましい。最近の若年者層はパソコン離れが進み、デスクトップパソコンやノートパソコンの利用経験が乏しい人も増えてきている。インターネット情報と接触がスマートフォンやタブレットのみ、というケースも増えている。そういった面からもＳＮＳサービスを検討することは重要である。 □ このようにして良い循環が生まれ、現役世代の生涯学習への興味・関心が高まり、参加が促進されていくことが望ましい形であろう。

Ⅳ　文献等調査編

Ⅳ-１　他地域・官民取組事例調査

（1）富山市『インターネット市民塾』　　調査手法　**文献調査**

概要

e-ラーニング機能をもつ生涯学習のパブリックスペース

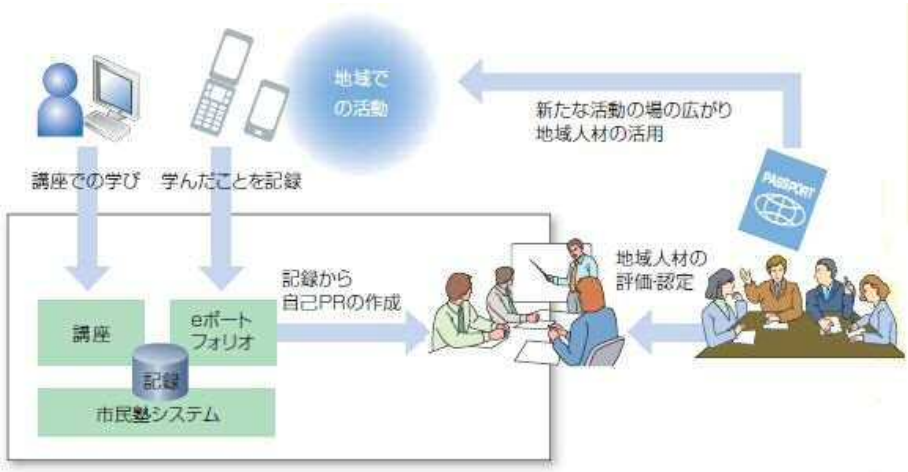
- 平成11年（前身のインターネット市民塾実証実験共同プロジェクト発足）以来、富山県、市町村、経済界、一部企業などが参画する産官学運営型組織「富山インターネット市民塾推進協議会」が運営している生涯学習プラットホーム。（事務局　富山大学 人間発達科学部教育情報システム研究室内）
- コンセプトは
  『ネットを利用し、誰もが講座やサークルを開くことができる『学びのフリーマーケット』、市民がネットを通じて交流と絆を深める『パブリックスペース』
- インターネット上で誰もが講座やサークルを開催でき、参加できるe-ラーニングシステムの性格を持つ。また、この「市民塾」に集う人々、団体、組織などが自己ＰＲできると同時に、参加者の学びの記録蓄積と活用ができる仕組み（『eポートフォリオ』）を内包している。
- 「eポートフォリオ」の学びの記録は、その蓄積量によって“地域を担う人材”認定され「eパスポート」を取得することができる。
- 運営は塾の活動に共感するボンランティアスタッフによる。
- この「市民塾」に集う人々、団体、組織などが自己ＰＲできると同時に、参加者の学びの記録蓄積と活用ができる仕組み（『eポートフォリオ』）を内包している。活動は国の生涯学習政策にも取り上げられ「生涯学習プラットホーム」として、生涯学習による地域づくりのモデルにもなった。
- インターネット市民塾を利用するためには会員登録が必要。

【利用登録】

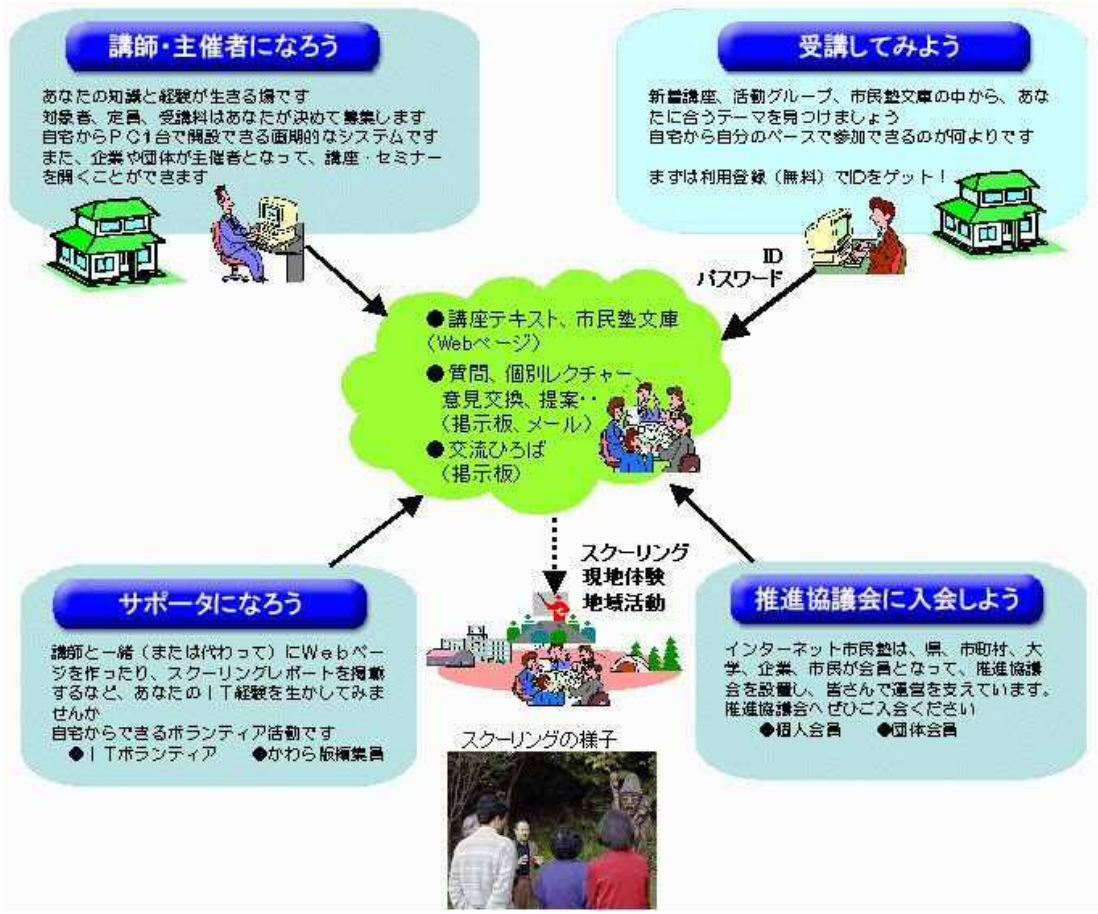
- 登録料毎年1,000円で登録するＩＤが発行される。
- 「友の会」制度があり、年間3,000円の会費を支払うと、上記の年間登録料は無料、有料講座も無料受講できるなどの特典。

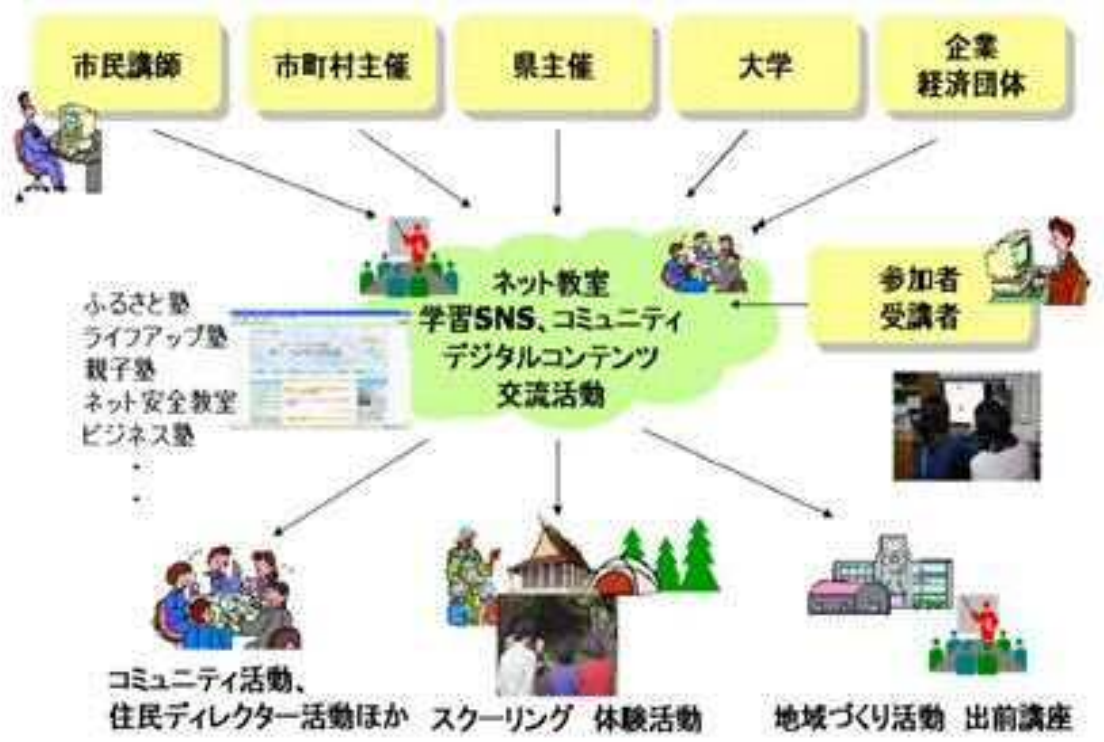
- 登録会員数は2010年前後で7,000～8,000人程度とされている。
- 2011年時点の資料では、県内会員60%：県外会員40%とされ、40代がピーク年代とされている。
- 2015年時点の資料では、年間55講座が開講し、受講者は約900名程度である。（2018年度の受講生・講師募集パンフレットでは20講座の受講生募集が行われている。）
- Twitter、FacebookなどのＳＮＳも活用されているが、内容は会員向けの講座、イベント開催告知。
  - フォロワー数　　twitter（約1,400人弱）、Facebook（約400人弱）

イメージ



イメージ


講師・主催者になろう
あなたの知識と経験が生きる場です
対象者、定員、受講料はあなたが決めて募集します
自宅からPC1台で開設できる画期的なシステムです
また、企業や団体が主催者となって、講座・セミナーを開くことができます
受講してみよう
新着講座、活動グループ、市民塾文庫の中から、あなたに合うテーマを見つけましょう
自宅から自分のペースで参加できるのが何よりです
まずは利用登録（無料）でIDをゲット！
ID
パスワード
●講座テキスト、市民塾文庫（Webページ）
●質問、個別レクチャー
意見交換、提案・・
（掲示板、メール）
●交流ひろば
（掲示板）
スクーリング
現地体験
地域活動
サポータになろう
講師と一緒（または代わって）にWebページを作ったり、スクーリングレポートを掲載するなど、あなたのＩＴ経験を生かしてみませんか
自宅からできるボランティア活動です
●ＩＴボランティア　●かわら版編集員
推進協議会に入会しよう
インターネット市民塾は、県、市町村、大学、企業、市民が会員となって、推進協議会を設置し、皆さんで運営を支えています。
推進協議会へぜひご入会ください
●個人会員　●団体会員
スクーリングの様子


市民講師
市町村主催
県主催
大学
企業
経済団体
ネット教室
学習SNS、コミュニティ
デジタルコンテンツ
交流活動
参加者
受講者
ふるさと塾
ライフアップ塾
親子塾
ネット安全教室
ビジネス塾
コミュニティ活動、
住民ディレクター活動ほか
スクーリング　体験活動
地域づくり活動　出前講座

（2） 静岡県『静岡県生涯学習システム・まなぼっと』　　調査手法　**文献調査**

概要

県内800余の情報提供団体が登録している総合型プラットホーム

- 2014年に複数の生涯学習情報システムを統合し、『まなぼっと』の愛称をもつ生涯学習「講座情報」を中心としたプラットホームとして運用が開始された。
- 運営は静岡県総合教育センター生涯学習推進班（まなぼっと事務局）が行っている。
- 基本的には次のような特徴をもつ。

①講座情報
700以上の各種団体、行政、公的機関などの登録者（情報発信者は登録必須）が情報を発信

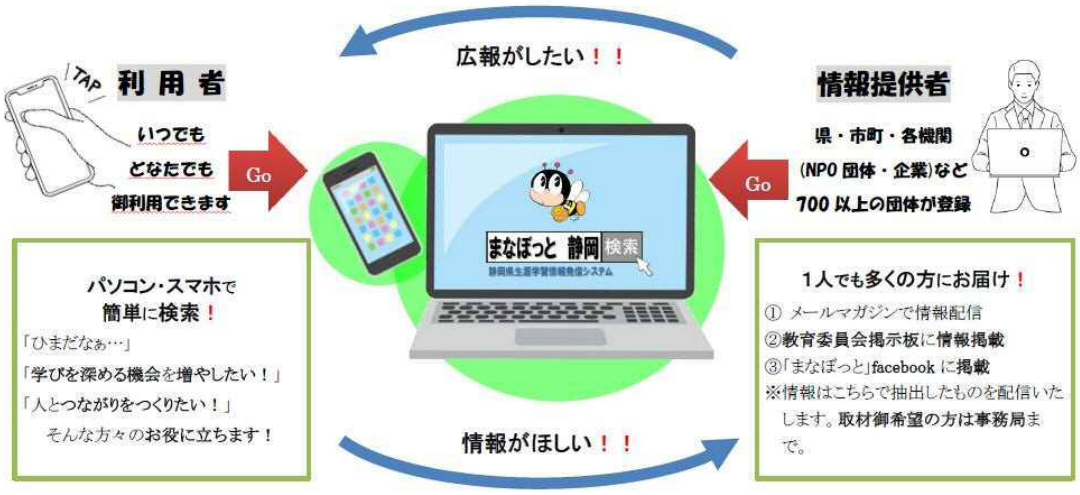
②利用検索
パソコン、スマホ対応で、<大人向け><子ども向け><学校・教職員向け>に対応

③会員登録
登録（無料）するとマイページを持つことができ、事務局で抽出した最新・最適情報を得ることができるほか、生涯学習記録の保存もできる。また、メールマガジンも受信可能

④「しずおか県民カレッジ」
行政、各種団体などが大学等が実施する社会教育関連連携講座のうち、地域学関連８分野に登録された「しずおか県民カレッジ」との連携（この県民カレッジを受講する際は「まなぼっと」を通じて申し込みを行い受講手帳を得ることが前提になる）

- 「情報提供団体」は平成28年度770団体→平成29年度は目標600団体に対し793団体の実績
- 「まなぼっと」閲覧数は平成27年12月時点でトップページセッション数約22,000件
- 「しずおか県民カレッジ」連携講座数は延べ5,000件（平成27年末時点）
- 「まなぼっと」は「Facebook」も活用されているが、フォロワー数は少なく150人程度。

イメージ



利用者と情報提供者の違い

	利用者	情報提供者
会員登録	任意	必須
情報閲覧	○	○
情報登録	×	○
メールマガジン	○ (会員登録の場合)	○
学習情報記録	○ (会員登録の場合)	×
活動報告	×	○

イメージ

会員登録

(1)ウェブサイトで登録もしくは事務局へ申請書を提出
会員になると3つの機能を御利用いただけます。

学習記録

受講した講座等の記録を残し、保存できます。何を何時間学んだか、一目でわかり、次の学びへの意欲につながります。

お気に入り学習情報

「もっと講座情報を見たい！」という方、マイページを開くと常に祭神情報が5件表示されます。「一覧はこちら」を1クリック！素敵な学びとの出会いが待っています。

メールマガジン

受講した子どもたちからの感想や参加受付中の講座情報を御紹介しています。その他にも、皆様にお伝えしたい情報・事務局からのメッセージをお届けしています。

(2)学習情報の提供が可能になります

ウェブで登録

Step 1 トップページの「会員登録」へ
Step 2 情報提供者の登録ページに進み、必要事項を入力して仮登録（IDやパスワード、氏名など）
Step 3 管理者確認後、メールにて本登録終了のお知らせが届く
Step 4「まなぼっと」利用開始

メール、FAX または郵送で登録

Step 1 事務局に連絡し、「情報提供者登録申請書（様式1）」を入手
Step 2 必要事項を記入し、事務局へ提出（メール、FAX または郵送で）
Step 3 事務局が代理入力
Step 4 登録終了のお知らせとともに、「まなぼっと」利用開始

（3） 京都市『生涯学習情報検索システム“京まなびネット”』　　調査手法　**文献調査**

概要

独自開催講座・セミナーの動画配信も行う総合サイト

- 京都市（教育委員会生涯学習部）が平成20年に開設した生涯学習情報検索システム。その後、平成23年に使い勝手を中心に大幅な改修を実施。
- 京都市をはじめ，京都市生涯学習市民フォーラム、京都市内博物館施設連絡協議会の加盟団体・館等が主催する講座や講演会、イベント、展覧会、ボランティア募集などの各種生涯学習情報を発信。
- イベント等の主催者が，情報をホームページ上の専用画面で入力・登録するシステムを採用し、タイムリーな情報を迅速に配信。
- 閲覧者（利用者）は「芸術・文化」「学術」「趣味」等のカテゴリーや実施日，場所，キーワードなどの細かい条件を指定して各種講座、体験教室、講習会、イベント、展覧会、ボランティア募集、生涯学習関連の施設検索ができる。
- 会員制はとっていない。（※生涯学習記録は紙ベースの手帳を配布）
- 京まなびネットの主たる特徴として下記の２つがある。

  ①京ナビネットが所有するセミナー、講座の動画・資料閲覧が可能
  - 動画コンテンツは65件
  - その他資料が　　25件（セミナー、講演のレジュメ等）

  ②イベント等の主催者は専用画面で直接入力・登録するシステムを採用。迅速に情報配信できる。
  - 会員登録団体が直接入力し、事務局でチェックの後に配信（登録から配信まで２～３日）

  ③モバイル版サイトを開設。新たなデバイスに対応。（平成25年～）
- 「情報提供団体」は865団体（平成29年度）　※堅調に増加
- 「閲覧数」は17.4万件（同）　※平成27年は24.3万件で3年間で30%程度減少
- 「講座、イベント情報」配信として平成29年3月から「Twitter」も活用（フォロワー2,200弱）

【運営コスト】
- 委託費　サーバー使用料　4.5万円＋システム保守管理　100万円
- 人件費　（専任担当なし　0.25人分）　年間約204万円

イメージ

イメージ

●はじめに

京都市生涯学習情報検索システム「京まなびネット」では，京都市内で開催される講座や講演会，イベント，展示会，ボランティア募集などの生涯学習情報をインターネットにより配信しています。

タイムリーな情報を迅速に配信するため，イベント等の主催者が，生涯学習情報をインターネット上の専用画面で入力・登録するシステムを採用しています。

本マニュアルでは，その入力・登録の具体的な方法を説明しています。

生涯学習情報入力の流れ

1　インターネットに接続して，京まなびネットにアクセスする。

■「京まなびネット」のＵＲＬ
http://miyakomanabi.jp/

2　「関係団体ログイン」をクリックし，「管理画面」にてアカウント名とパスワードを入力し，ログインする。

事前登録団体に限る

＊下記のURLを直接入力する方法でも管理画面にアクセスできます。

■「関係団体ログイン画面」のＵＲＬ
https://miyakomanabi.jp/admin

事業名など11項目の入力フォーマットに従う

3　「イベント管理」画面でイベント情報を入力・登録する。

4　管理者（教育委員会）が登録情報の内容を確認し，「京まなびネット」で公開する。

登録された内容を事務局で確認（２～３日）後に公開

5　主催者（関係団体）が「京まなびネット」にアクセスし，公開情報の内容を確認する。

（4） 兵庫県『生涯学習SNS・インターキャンパスコミュニティ』　　調査手法　**文献調査**

概要

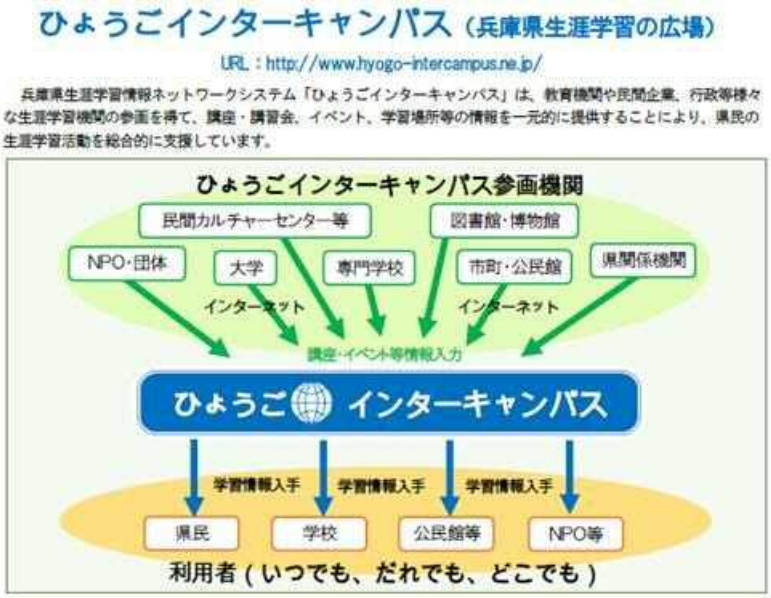
生涯学習総合サイトから派生した会員専用SNSサービス

- 兵庫県生涯学習情報ネットワークシステム「ひょうごインターキャンパス」は、教育機関や民間企業、行政等様々な生涯学習機関の参画を得て、講座・講習会、イベント、学習場所等の情報を一元的に提供する生涯学習情報総合プラットフォーム。
- 公益財団法人兵庫県生きがい創造協会生涯学習部が運営している。
- ＜講座・イベント情報・検索＞＜施設・団体・グループ検索＞＜生涯学習リーダーバンク検索・登録＞＜学びのギャラリー＞に加え＜学習相談＞にも対応する。
- 「情報提供団体」は506団体（平成29年度）
- 「閲覧数」は44.5万ＰＶ（同）

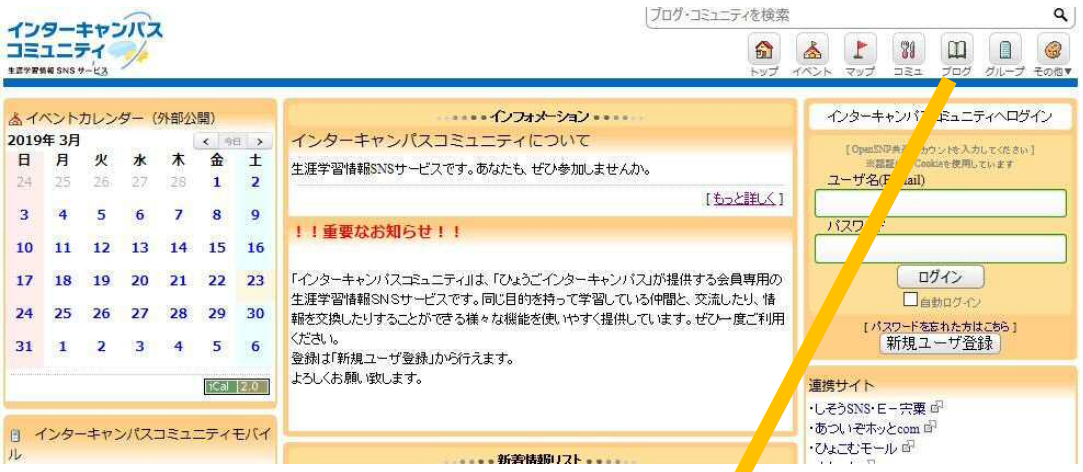
インターキャンパスコミュニティ

- 『コミュニティ』はインターキャンパスから派生した仕組みで、「ひょうごインターキャンパス」会員専用で、会員同士の交流、情報を交換機能や学習履歴ブログ機能などを有する。
  - **●スケジュール機能**
    自分のスケジュールを登録。「自分だけ・トモダチのみ公開・メンバー全員公開」など設定可能。
  - **●マイ地域登録機能**
    自分のマイホーム（マイページ）には自分が設定した地域の情報を優先表示。
  - **●トモダチ機能**
    仲良くしたいメンバーを「トモダチ」登録をすれば、トモダチがブログを更新した時にマイホームで通知されたり、トモダチのみに公開しているスケジュールを確認できる。（学習仲間拡大）
  - **●コミュニティ機能**
    同じ目的を持った仲間でコミュニティ（掲示板）を作ることができる。
  - **●カレンダー機能**
    「ひょうごインターキャンパス」の講座・講習会、イベント情報がカレンダーに表示される。
- 「会員数」は非公開であるが、『公開ブログ』数は約1,800件（平成30年度末）

イメージ



イメージ


インターキャンパスコミュニティ
ブログ・コミュニティを検索
トップ
イベント
マップ
コミュ
ブログ
グループ
その他
イベントカレンダー（外部公開）
2019年 3月
インフォメーション
インターキャンパスコミュニティについて
生涯学習情報SNSサービスです。あなたも、ぜひ参加しませんか。
[もっと詳しく]
！！重要なお知らせ！！
「インターキャンパスコミュニティ」は、「ひょうごインターキャンパス」が提供する会員専用の生涯学習情報SNSサービスです。同じ目的を持って学習している仲間と、交流したり、情報を交換したりすることができる様々な機能を使いやすく提供しています。ぜひ一度ご利用ください。
登録は「新規ユーザ登録」から行えます。
よろしくお願い致します。
インターキャンパスコミュニティにログイン
ユーザ名(Email)
パスワード
ログイン
自動ログイン
[パスワードを忘れた方はこちら]
新規ユーザ登録
連携サイト
・しそうSNS・E－宍粟
・あついぞホッとcom
・ひょこむモール
インターキャンパスコミュニティモバイル

インターキャンパスコミュニティ
キーワード検索
検索
※タイトル・本文より検索を行います。
RSSフィード
表示モード
通常表示
簡易表示
投稿者別
表示カテゴリ
全て
クチコミ情報
アルバム
学習の記録
2019年 3月
外部公開ブログ件数は1,794件です。
[1 2 3 4 5 6 7 8 9 ... 180]
[最新投稿順▼] [投稿者名順] [カテゴリ] [閲覧数順]
Up to -80% on runescape games in our Happy Halloween & Thanksgiving Day Week (2)
rs2hotcom
日記
1,492
18/11/09 12:01
www.rs2hot.com offer cheap RS gold/ RS Account/ RS Item/ RS Stuff/ Rs Quest Help/ rs2007 leveling at amazingly cheap prices!rs2hot is your best choice to Buy Cheap RS gold online store! Cheapest [url=https://www.rs2hot.com/rs2007-gold/]osrs gold[/url] for Sale, Full stock,10 years professional, 100
... [続きを読む]
詳細 >>
初投稿 (13)
まいたろう
日記
8,778
18/05/27 17:55
はじめまして。
唐突にここちらのブログにたどりつきました。
ただたどりついただけならば、さっさと閉じたことでしょう。が、しかし、見過ごせないものをみつけてしまいました。
それは、イベントスケジュール
... [続きを読む]
NO PHOTO

まいたろうさんのプロフィール
まいたろう
男性
はじめましてよろしくおねがいします。
NO PHOTO
最近のブログ
2018 5 27 初投稿

（5） 兵庫県丹波市『LINEの活用』　　調査手法　**文献調査**

概要

生涯学習分野ではないが、地域コミュニケーション手法としてLINEを活用している事例

- 人口約65,000人の丹波市で、平成30年7月に多様な「地域社会の課題＝市民の悩み、問合せ」解決手法として、ＬＩＮＥを活用した社会実験を開始。（国立情報学研究所(NII)、京都大学大学院情報学研究科協力。尼崎市でも実験）
- 問合せなどへの対応にはＡＩ活用による対話型サービスを目指す方向だが、現在は基礎的なデータ収集、応答システム構築の段階にある。
- クーポン券の発行や、市のテレビ放映予定情報などの情報提供にも活用。

実証実験

- 平成30年４月12日　丹波市 企画総務部合政策課『LINEを活用した社会課題解決手法の研究に関する連携協定締結ついて』
  この度丹波市は兵庫県、尼崎市、LINE株式会社、国立情報学研究所、京都情報学研究科と連携協定を締結し、LINEを活用した社会課題の解決に取り組みます。（中略）具体的にはLINE上で市民からの問合せに対話型で即座に回答するプログラム、いわゆる人工知能（対話型チャットボット）の開発を進めます。更には問合せ履歴から潜在的ニーズを把握し、住民サービスの向上や地域活性化に資する新たなサービス創出に役立てていきます。（中略）本プロジェクトの効果として①問い合わせチャネル多様化（新たなコミュニケーションツール）②問い合わせ解決の迅速化　（略）
  実証研究期間　平成30年4月～平成31年3月

丹波市はLINE活用の先進地

- 市では2013年からLINEの活用をはじめ「世界最短！3時間だけ市長になれる」、「広報誌の表紙を飾れる」などの地域コミュニティ型クーポンをLINE上で配信し、アカウントの登録者を伸ばしているのは、兵庫県丹波市だ。市が利用しているのは、企業や自治体がLINEアカウントを持ち、登録者に情報発信ができるサービス「LINE@」。丹波市のアカウント登録者数は3900人を超え、関西の自治体では最も多い。フェイスブックと合わせて運用し、市のホームページや広報誌などを見る機会の少ない10～30代の若年層への情報発信を強化する狙いだ。
- 登録者数：2013年3,900人→2016年約6,500人とされているが、重複や休眠もあり詳細不明。
- 市のキャラクター「ちーたん」のLINEスタンプはこれまで2,000セット程度の販売実績あり。
- LINEを通じて提供されたクーポン等
- 丹波市薬草風呂入浴無料チケットクーポン、3時間丹波市長になれる体験クーポン、女子プロ野球無料観戦チケットクーポンなど

- このほか、市政情報の発信は**「Facebook」でも行われており、フォロワー数は約5,000人と**、人口規模に比して極めて多い。

イメージ

イメージ

丹波市公式ＬＩＮＥ@

印刷用ページを表示する　掲載日：2019年2月15日更新

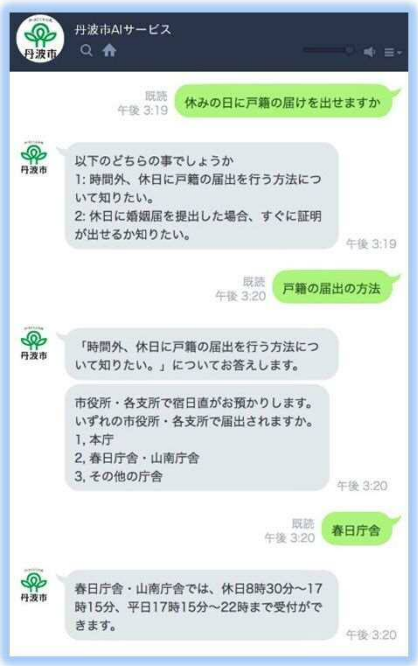
Tweet　いいね！0　シェア　LINEで送る

丹波市公式ＬＩＮＥ@運用開始！

丹波市では、丹波市公式ＬＩＮＥ@を運用開始します。

市役所では珍しいクーポン券の発行や、丹波市のテレビ放映予定など、お得で楽しい情報を発信していきますので、ぜひ丹波市とお友達になってください。

丹波市公式ＬＩＮＥ@利用規約 [PDFファイル／181KB]



自働対話プログラムのイメージ

① LINE上で、市民等が例えば、粗大ゴミを出したいと思った際に、音声入力機能を使い、「粗大ゴミを出したい」と問いかける。

② 問い合わせを受けて、自動的に事前に作成した対応シナリオに基づく回答が表示される。

③ 上記①②のやりとりを自動で行う。

例［粗大ゴミの出し方］

粗大ゴミを出したい

「粗大ごみの出し方について知りたい。」についてお答えします
粗大ごみの収集は有料です。
粗大ごみの出し方は、次の通りです。
１　収集申込みをする
２　粗大ごみ処理券を購入する
３　収集日に粗大ごみ処理シールを貼って出す
どれが聞きたいですか

収集申込みをしたい

「１　収集申込みをする」についてお答えします
お申し込みの際に、処理手数料、収集日、受付番号を案内いたします。
また、収集場所の確認を行います。
お住いの地域別収集日の３日前までにお申し込みください。

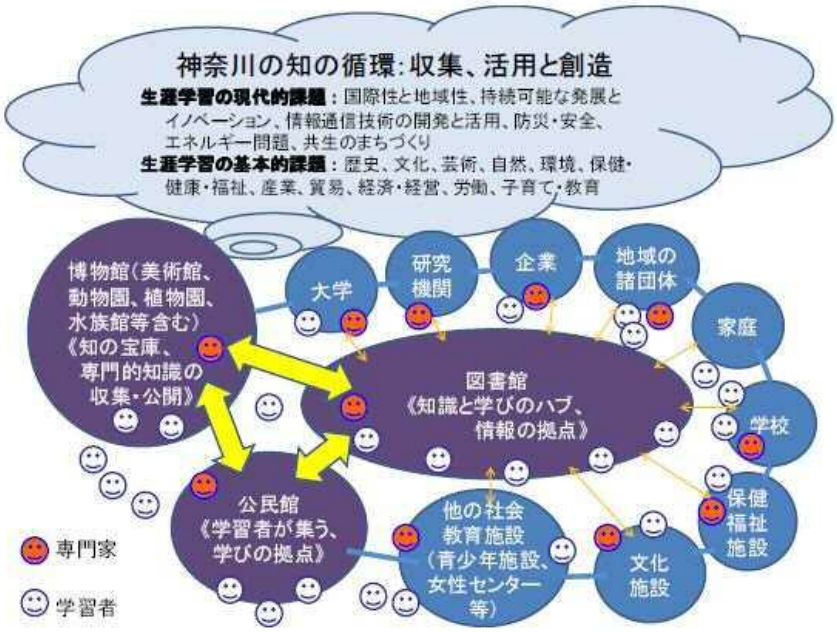
（6）神奈川県『生涯学習情報システムPLANETかながわ』　調査手法　**ヒアリング調査**

取材実施概要		【取材日】平成31年2月21日 【取材先】神奈川県生涯学習情報システム「PLANETかながわ」 ・神奈川県教育局生涯学習課 ・神奈川県立図書館生涯学習課 【取材地】神奈川県立図書館会議室
取材内容	概　要	■ 1997年に全国に先駆けて構築された講師登録、利用者登録、講座データベースを基礎に、希望する講座などの検索、開講支援が可能な本格的な総合プラットホーム。 ■ **2017年度実績** ●データベース件数／32,484件（2003年度がピークで約17万件） ●利用者数／トップページアクセス数　51,000件（2003年度がピークで約20万件） ●データベース、利用者数とも年々減少。要因は民間教育情報の増大、各市町村の独自システムも稼働、活用の利便性が低下などとされている。
	経　緯	■ 1997年の「生涯学習センター」開設と同時に運用開始。 ■ ハードの「センター」と、ソフトの「PLANET」の重層的展開。 ■ 2014年に「センター」閉鎖（ハードの役割を終えた-ソフトへ） ■ 新たな生涯学習拠点の理念として『知の循環：収集、活用と創造』が出され（H24生涯学習審議会答申がベース）、図書館を知識のハブと位置付けた。
	運　用	【運営体制】 ■ 県立図書館が運営（知のネットワーク拠点を志向） ●年間コスト　約600万円（サーバー等の機器リース） ●人員３名（常勤２名＋非常勤１名） ■ ユーザーの使い勝手を向上させる刷新を重ねてきた。システムは5年ごとに更新されるが、現在、根本的な刷新を議論中。但し、県下の市町村が連携しているので、県のみで突出した刷新は難ししい。 ■ 『民間への機能移転可能性』については、検討はあるものの「図書館が知の循環拠点」としての役割をもつことが重要であるとの視点から否定的。 ■ 『PLANETかながわ』は“先を走った”が故に、その「更新」課題は大きい。 **【参　考】** ■ 現在でも県都・横浜市には独自の生涯学習総合サイトの仕組みがなく、「PLANETかながわ」に依存する形となっている。横浜市内に限定された情報提供は「区」が担う形となっている。
	効　果	■ 直接的に「PLANETかながわ」によって講座参加者数が増加するなどの効果は考えにくい。 ■ このようなプラットホームとしては「講座を知るキッカケ」になることが重要。 【ＳＮＳ】 ■ 平成27年頃からTwitter（フォロワー150人程度）、Facebook（100人未満）の活用を開始した。目的は「PLANET」の閲覧・利用減少をふまえ、PLANETの利用促進のためのＳＮＳと位置付けており、“新たな仕組み”として活用するという狙いはなかった。 ■ 今後の本格的活用については模索中。 ■ 情報発信は職員（上記のPLANET担当）が不定期で書き込み。情報は講座案内などに限られている。週1回程度の書き込みが目標だが、人的パワーが追い付かない。
	その他	■ 神奈川県庁ＨＰの動画配信「かなちゃんＴＶ」は知事室の広報用として立上げられたもので、生涯学習分野での活用は知事室の認可を基にして可能（自由度は低い） ■ 「PLANETかながわ」としても動画＝学習素材提供には関心がある。 ■ 大学連携は充実（県下の66大学参画）している。推進協議会は年2回開催され、大学連携の生涯学習フェアも年2回開催（企画は県立図書館）。 ■ 但し、大学間には温度差もあり、大学によっては産官学連携事業を優先する場合もある（大学経営に有利か否かを判断）。

イメージ

図書館（PLANETかながわ）を運営事務局とする根拠
（平成24年6月　第10期神奈川県生涯学習審議会）

施設に望まれる今後の方向性～施設の「知」・地域の「知」を活用し、循環させる拠点～



資料

『PLANETかながわ』利用状況
（平成30年度　神奈川県立図書館事業要覧）

6　生涯学習関連事業統計

(1)　所蔵統計

ア　生涯学習情報システムのデータベース件数

区分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生涯学習情報システムのデータベース件数	施設	5,460 件	5,024 件	5,179 件	5,068 件
	講座・催し物（＊）	10,457 件	9,922 件	7,638 件	6,901 件
	うち、講座情報	(4,779) 件	(6,082) 件	(4,842) 件	(4,323) 件
	見学	1,756 件	1,756 件	1,765 件	1,746 件
	団体・グループ	9,049 件	8,755 件	7,869 件	7,486 件
	指導者・ボランティア	3,791 件	3,595 件	3,340 件	3,248 件
	資格・試験	634 件	634 件	634 件	574 件
	教材・機器	6,770 件	6,776 件	5,380 件	5,386 件
	体験活動ボランティア情報（＊）	1,012 件	982 件	825 件	753 件
	文化財情報	986 件	1,006 件	1,035 件	1,064 件
	出土品情報	258 件	258 件	258 件	258 件
	計	40,173 件	38,708 件	33,923 件	32,484 件

＊年間提供データ

イ　生涯学習情報コーナーに配架した生涯学習関連情報の件数

区分 ＼ 年月		29/4	5	6	7	8	9	10	11	12	30/1	2	3	合計	前年度合計
配架資料の種類	講座・催し物	149	159	150	187	193	235	170	156	143	165	149	195	2,051	1,973
	施設・見学	5	4	13	6	6	4	2	6	6	9	4	4	69	101
	資格・試験	4	5	4	63	13	2	2	2	24	10	6	1	136	40
	機関紙・総合誌	85	72	91	103	65	32	39	31	51	34	29	45	677	1,130
	その他	1	1	3	1	4	2	1	0	1	1	3	2	20	178
	計	244	241	261	360	281	275	214	195	225	219	191	247	2,953	3,422

(2)　利用統計

ア　生涯学習情報コーナー利用実績表

区分		年月	29/4	5	6	7	8	9	10	11	12	30/1	2	3	合計	一日平均	前年度合計	前年度一日平均
		開館日数	19	25	25	26	26	26	26	25	23	23	24	26	294	－	294	－
利用者数			383	501	481	513	507	503	445	472	381	432	499	516	5,633	19.2	6,003	20.4
	内訳	閲覧のみ来館者数	290	396	354	398	422	370	339	352	291	354	400	406	4,372	14.9	4,806	16.3
		来館による相談者数	91	100	104	99	83	128	102	116	89	74	94	105	1,185	4.0	1,049	3.6
		電話等による相談者数	2	5	23	16	2	5	4	4	1	4	5	5	76	0.3	148	0.5

イ　生涯学習相談状況

区分 ＼ 年月	29/4	5	6	7	8	9	10	11	12	30/1	2	3	合計	一日平均	前年度合計	前年度一日平均
学習相談者数	93	105	127	115	85	133	106	120	90	78	99	110	1,261	4.3	1,197	4.1
学習相談件数	93	105	127	115	85	133	107	121	90	78	100	110	1,264	4.3	1,205	4.1

（学習相談の分野別内訳）

施設	講座・イベント	おでかけ	団体・グループ	指導者・人材	資格・試験	教材・機器	運営・利用等	体験活動・ボランティア情報	その他	計
2	76	6	15	13	12	1	1,099	19	21	1,264
前年度実績										
2	180	12	18	33	7	12	906	4	31	1,205

—13—

資料

『PLANETかながわ』利用状況
（平成30年度　神奈川県立図書館事業要覧）

ウ　「PLANETかながわ」の利用状況

区分	年月 / 閲覧室名	29/4	5	6	7	8	9	10	11	12	30/1	2	3	合計	一日平均	前年度 合計	前年度 一日平均
システムの稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	—	365	—
トップページへのアクセス件数		4,552	4,921	4,757	4,425	4,335	4,010	3,694	3,623	3,903	3,902	4,230	4,210	50,562	139	59,850	164
情報検索件数		12,989	11,617	12,845	13,149	12,598	12,023	12,859	11,069	10,041	11,579	11,055	12,811	144,635	396	199,726	547
分野別内訳	施設情報	273	253	248	243	220	245	269	242	244	268	248	297	3,050	8	4,243	12
	講座・催し物	2,325	2,084	2,419	2,152	2,169	2,070	1,953	1,803	1,693	2,293	2,065	2,377	25,403	70	27,106	74
	おでかけ情報	201	187	211	198	177	194	218	194	208	221	210	294	2,513	7	2,457	7
	団体・グループ	1,115	1,273	1,204	1,156	1,089	1,406	1,263	1,008	845	1,133	1,076	1,230	13,798	38	12,503	34
	指導者・人材情報	377	366	347	311	328	331	353	346	306	354	378	426	4,223	12	5,592	15
	資格・試験情報	270	221	256	214	218	228	283	234	235	298	276	324	3,057	8	4,045	11
	教材・機器情報	193	180	176	174	168	174	206	183	177	213	203	267	2,314	6	2,651	7
	体験活動ボランティア情報	1,802	1,544	2,314	2,294	2,022	1,897	1,975	1,286	1,171	1,410	1,506	1,559	20,780	57	27,905	76
	文化財情報	882	774	737	1,141	1,238	671	754	653	664	752	679	817	9,762	27	16,768	46
	出土品情報	214	145	172	153	194	171	209	161	178	163	210	262	2,232	6	2,990	8
ホームページの案内		1,368	1,051	1,070	1,074	1,078	1,119	1,327	1,182	946	798	808	974	12,795	35	14,356	39
情報コーナー等の案内		1,900	1,673	1,987	2,222	1,600	1,501	1,641	1,659	1,411	1,705	1,600	1,795	20,694	57	46,882	128
各機関等からのお知らせ		1,161	1,169	972	1,010	1,284	1,218	1,489	1,306	1,227	1,212	1,090	1,254	14,392	39	21,638	59
携帯サイト		261	208	222	257	236	249	303	282	120	0	0	0	2,138	6	3,189	9
リンク等のページ		647	489	510	550	577	549	616	530	616	759	706	935	7,484	21	7,401	20

(3)　その他

生涯学習ボランティア活動状況

区分 / 年月	29/4	5	6	7	8	9	10	11	12	30/1	2	3	合計	前年度 合計
活動延べ人数	23	46	46	67	32	56	40	51	26	34	48	20	489	450

Ⅳ-２　類似研究・各種資料調査

（1） ICTを活用した生涯学習プラットフォームの構築に関する調査研究

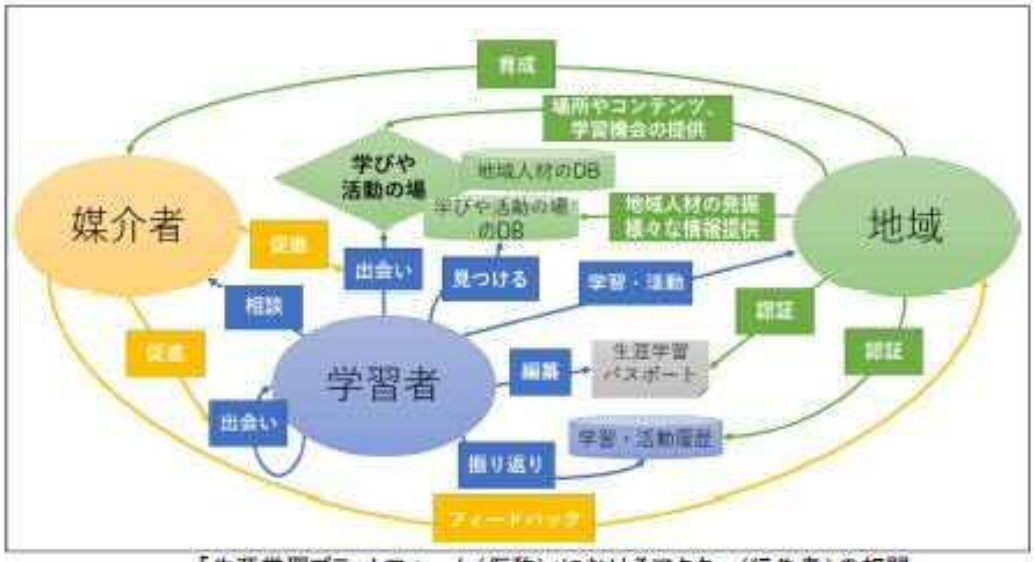
調査概要	【主　体】文部科学省 【名　称】平成29 年度 文部科学省「生涯学習施策に関する調査研究」 ＩＣＴを活用した生涯学習プラットフォーム（仮称）の構築に関する調査研究 【発　表】平成30年3月 【目　的】1億総活躍社会の実現、男女共同参画の実現、人生100 年時代を見すえた生涯学習（学び直し）の構築などを踏まえた「生涯学習プラットフォーム（仮称）」の実現に向けた今後の研究

（１）生涯学習プラットフォームの機能と行為者の関係

「生涯学習プラットフォーム（仮称）」のシステムの機能要件とアクターの関係

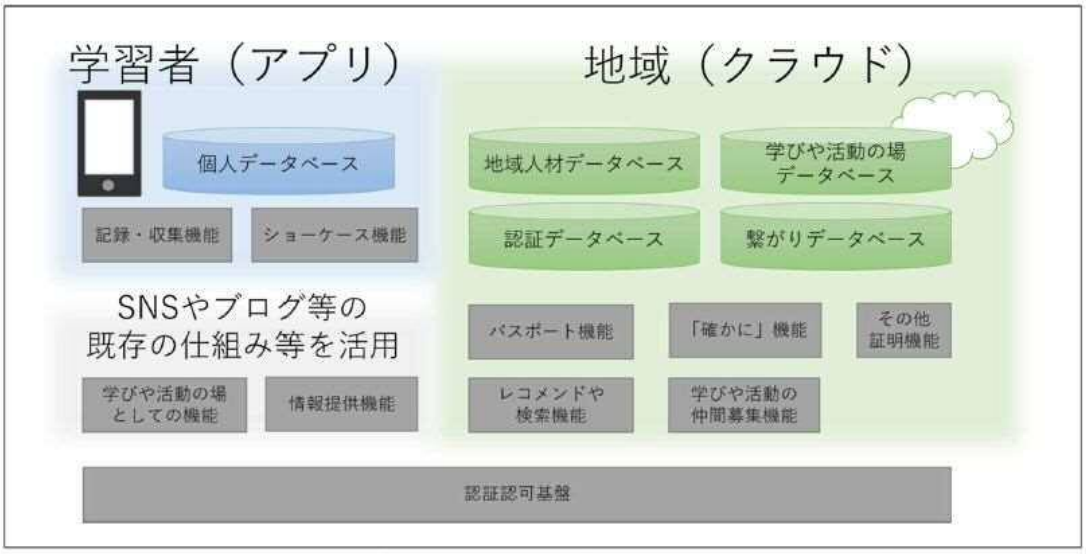
機能要件		アクター			
		学習者	地域	媒介者	システム
学習機会提供機能	レコメンドや検索機能	●		●	●
	情報提供機能	●	●		
	学びや活動の場としての機能	●	●		
学習・活動履歴の記録・証明機能	記録・収集機能	●	●		●
	ショーケース機能	●			
	「確かに」機能	●			
	その他証明機能	●	●		●
学習者等のネットワーク化機能	ネットワーク化機能	●			●
	パスポート機能	●			●
	学びや活動の仲間募集機能	●	●		●

（２）生涯学習プラットフォームの機能と行為者の関係



「生涯学習プラットフォーム（仮称）」におけるアクター（行為者）の相関

（３）生涯学習プラットフォームの機能とデータベース



「生涯学習プラットフォーム（仮称）」の機能とデータベースの配置案

（2） ICT の活用による生涯学習・社会教育の好事例の収集・普及・促進に関する調査研究

調査概要	【主　体】（株）三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルタント 【名　称】ICT の活用による生涯学習・社会教育の好事例の収集・普及・促進に関する調査研究 【発　表】平成25年3月 【目　的】生涯学習や社会教育においてICT をより効果的に活用していくために、日本におけるICT を活用した生涯学習・社会教育に取り組む実施主体を把握し、その実態調査を行う。

a）　先進的な ICT 技術やツールを導入

生涯学習の実施において、先進的な ICT 技術やツールを導入している事例が増えている。各施設内で先進技術を用いた ICT 機器等を利用して、視覚・聴覚に訴えるなどして理解の促進をはかったり臨場感あふれる疑似体験をしたり、タブレット端末やスマートフォンを活用して、ICT 活用ならではの学習が可能となっている。

例えば、名古屋市科学館「プラネタリウム」では、最先端の ICT 技術を組み合わせて投影を行い、実際に宇宙旅行をしているような疑似体験が可能となっている。長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」や岡山シティミュージアムでは、館内の床に航空写真を配置し、その上で iPad 等のタブレット端末を利用しながら視覚的にもわかりやすく学習できるような形態をとっている。自らの体を動かしながら地図上の自分の立ち位置に合わせて情報を得られるため、主体的な参加が可能な学習方法といえる。

デジタル教材の利用に際しては、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレット端末向けの対応が進んでいる。秋田県立図書館の電子書籍の貸出では、スマートフォンとタブレット端末用のアプリケーションが導入されている。また、ネットミュージアム兵庫文学館の「ひょうご文学小径・須磨」「ひょうご文学小径・兵庫長田」や、小布施町立図書館「まちとしょテラソ」では、地域の情報を題材にしたアプリケーションを制作して、インターネットを使えばどこから利用できるようにしている。現在、スマートフォンやタブレット端末の利用者数が急増しており、各機関の活動について関心を持ってもらうと共に、情報の受発信にも有益かつ効率的な方法だといえる。

選定基準②「生涯学習の“仕組み”に活用」

a）　学習形態の変化

ICT を活用した生涯学習は、自分の好きな場所で好きなときに学習できる等、地理的・時間的な制約条件を低減できる特徴を持つと考えられる。また、デジタル化されたコンテンツのため、実物を間近に確認したり、繰り返し学習したりすることにも役立つという利点がある。

例えば、青森県総合社会教育センター、徳島県立総合大学校「まなびーあ徳島」、鳥取県教育委員会「トリピー放送局」等で行われているインターネット上での講座配信においても、様々な映像コンテンツが配信されており、地理的・時間的な制約で講義に直接参加できないような人でも受講が可能となっている。

この他、ICT を有効に活用することで、館内と館外の学習を連携させたり、従来の一方通行型だけではない双方型での学習の実践に取り組んでいる例がある。

これまで、博物館など施設内での学習を基本とする社会教育施設においては、館内にいる間のみの学習に限定されがちであった。しかし、マリンワールド海の中道のように、タブレット端末など ICT を活用した独自システムの導入により、館外での事前・事後学習と館内学習を一連の学習としてシステム化しやすくなり、継続的な学習を可能にしている。

ICT の利用により、学習者側からの発信も容易に行えるようになってきている点も、「生涯学習の“仕組み”」に変化がおきている点だといえる。例えば、「e-手仕事クラウド図鑑」では、学習した子どもが同図鑑上に情報を発信・掲載することができるため、図鑑に掲載される情報自体が自己増殖して学びの“幅”が広がる仕組みをつくっている。また、岡山県立図書館「デジタル岡山大百科」や篠山市視聴覚ライブラリー「丹波篠山インターネット TV」のように、市民が制作する映像等のコンテンツを収集し、学習者自身がコンテンツの提供者になる機会を提供する“仕組み”を実現している例もある。

b)　ICT スキルの獲得

一般市民がコンテンツを制作したり情報を発信したりするには、ICT スキルの獲得が必要になる。ICT スキルの獲得は、生涯学習や社会活動の幅を拡げたり、新しい交流を始めたりといった、活動を活発化するための基本といえる。e-手仕事クラウド図鑑やマリンワールド海の中道での子どもの学習プログラムでは、学習の中で自然に ICT を活用した情報発信能力を身につけることができようになっている。また、岡山県立図書館「デジタル岡山大百科」や篠山市視聴覚ライブラリー「丹波篠山インターネット TV」等では、それぞれの活動の中で ICT スキル獲得の支援を行っている。この他、ICT スキルの獲得に特化した活動を行い、それにより新たな活動を行っている例としては、通信事業者 A の社会貢献活動（CSR）による被災地支援活動等がある。

(3)　選定基準③「生涯学習の理解促進や学習意欲・満足度の向上」

これまで見てきたように、ICT を活用した生涯学習は、視覚・聴覚に訴えたり繰り返し学んだりできるため、理解の促進につながると考えられる。また、ICT の双方向性を活用すれば受講者は講師に質問したり他の受講者と交流したりしやすくなるので、理解促進に役立つだけでなく、学習意欲が継続し、満足度の向上にも役立つと思われる。

例えば、インターネット市民塾では、各講座においてインターネット上の掲示板を設け、受講者が質問できるようになっている。市民講師に関しては、受講者と講師がやりとりする場としてインターネット上に各講師にバーチャルな“部屋”が設けられている。マリンワールド海の中道では、コミュニティサイト等を活用することで、館外においても水族館職員や友人と情報交換を行うことができるため、疑問点を解消しながら、また互いに刺激を与えあいながら学習できるようになっている。

名古屋市科学館「プラネタリウム」では、モバイルガイドシステムの開始に伴い、学芸員は解説するテーマに沿った短いビデオや様々なデータを Web ベースで管理し、利用者に提供している。これを利用することで、展示室の内容とプラネタリウムをつないで考えたり、投影や解説に関する資料を手元に残したりすることができるため、より深い理解が期待できる。このような工夫により、実際に来館するリピーターが着実に増えている。

ICT の双方向性を活用すれば、学習者からの声をすい上げることができる。それによって学習者のニーズを把握したり、理解が不十分な点を把握したりできる。その方法として、インターネット上に意見を集めるコーナーを設置する例などがある。この他、最近では SNS を利用した交流等が重要な役割を果たしている。例えば、中央大学「知の回廊」では、Twitter や Facebook 等の SNS を活用し、番組制作秘話やスケジュール等の発信をするほか、利用者のニーズ等の把握にも努めている。また、インターネット上だけでなく、実際に集まって学ぶ機会も設けて、さらなる理解の促進や学習の継続を促している。

生涯学習において、学習意欲・満足度の向上を促す制度として活用されているのが、「単位認定制度」である。徳島県立総合大学校「まなびーあ徳島」や青森県総合社会教育センター等で実施されている。これは、講座の受講に応じて単位を取得でき、一定数を超えれば「～～賞」などの称号が得られるようになっている。この単位認定や「～～賞」の取得は、学習活動の「見える化」をはかることで、学習意欲の継続や満足度の向上をはかるものが多い[3]。

■中央大学「知の回廊」

中央大学が運営する「知の回廊」では、Twitter や Facebook 等の SNS を活用し、番組制作秘話やスケジュール等の発信をするほか、利用者のニーズ等の把握にも努めている。例えば、Twitter では現在約 6,200 のフォロワーが存在し、利用者のタイムラインを見ることで利用者が何を求めているかを把握し、番組作りに活かしている。Facebook では番組グループページを設けており、継続した交流やコミュニティ拡大につなげられるようにしている。

また、インターネット上の継続的な交流に加え、年に数回は番組監修教員による無料講演会やトークショー、ツアー等が実施されており、テレビやネットで学んできた知識をライブで再確認・実体験する場を設け、教員や利用者がインタラクティブに語り合える場を設けている。利用者の声を生で聞き、さらに SNS を活用した交流を促すことにも役立つため、利用者との交流や利用者同士の交流の基盤となっている。

このように、ICT の活用で双方向の交流が容易になり、利用者の疑問やニーズにも応えやすい環境ができている。さらに、継続的な交流も可能なため、直接会って生まれたコミュニティを維持させる力も持っていると考えられる。

4.2.3. 理解の促進、学習意欲の向上

生涯学習や社会教育においては、理解を促進したり、関心を喚起したりすることで、学習意欲の向上が進むと考えられる。

上記 4.2.1 で述べたように、ICT を活用した学習の特徴には、いつでもどこでも自分のペースで学べ、また、わからないところは繰り返し学べるという点がある。さらに、双方向性も備えているため質問もできる。また、上記 4.2.2 で述べたように、資料をデジタル化することで発信が容易になると、利用者は多くの資料を入手することができる。

先進的な ICT 技術を活用すれば、学習におけるエンターテイメント性も高まり、関心を喚起することに役立つといえる。名古屋市科学館「プラネタリウム」のように、先進的な ICT 技術を組み合わせて提供することで、星空の世界をあたかも実体験しているかのような感覚を味わいながら学習することができる。

このように、ICT を活用した生涯学習や社会教育は、利用者の理解を促進する役割を果たすと考えられる。

（3） 第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

調査概要	
	【主　体】文部科学省 【名　称】中央教育審議会生涯学習分科会議『第６期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理』 【発　表】平成25年1月 【目　的】第６期生涯学習分科会の審議内容を整理し、取りまとめたものである。この「議論の整理」が、国や地方公共団体等の取組の指針となり、生涯学習・社会教育の活性化に資する

4．学習の質保証・向上と学習成果の評価・活用の推進

（4） ＩＣＴを活用した学習の質の保証・向上、学習成果の評価・活用の推進

○　情報通信技術の進展に伴い、ＩＣＴの活用が日常生活に浸透する中で、地理的・時間的制約を超えるとともに双方向性の特長を有するＩＣＴを効果的に活用した学習（e ラーニング）を推進することが有効である。

○　このため、デジタルコンテンツの実態に関する調査研究の実施等を通じて、デジタルコンテンツの質の保証・向上のための仕組みを早期に構築することが期待される。

○　また、民間団体と地方公共団体等が連携して実施するＩＣＴを活用した学習成果の評価や社会的通用性の向上に資する取組（e ポートフォリオ、e パスポート）[25]を継続的に支援し、その成果を普及することが望まれる。

（4） 生涯学習まちづくり 地域SNS「e－じゃん」

調査概要	
	【主　体】掛川市 【名　称】生涯学習まちづくり　地域ＳＮＳ「e－じゃん」 【発　表】平成23年 【目　的】生涯学習のツールとしてＳＮＳ活用を推進

「生涯学習まちづくり
　地域ＳＮＳ　e-じゃん掛川」

掛川タクシー代表取締役社長
掛川市地域情報政策補佐官
早瀬　公夫

掛川市の地域コミュニティ活動

掛川市は明治の大合併、昭和の大合併、平成の大合併を経て誕生した、地方の小都市。比較的まだ地域コミュニティがしっかりしている。

掛川市の２大コミュニティ施策

(1) 市民総代会システム

市民総代会システムは、旧掛川市で昭和５４年に始まり、現在25地区で行われる「地区集会」と年１回の「中央集会」がある。議事録の「市長交流控帖」はホームページに公開。

(2) 地域生涯学習センター

掛川市の生涯学習運動を進める地域拠点として、昭和56年から整備。

現在、市内には概ね小学校区単位に26の地域生涯学習センターが設置されています。

運営の中心的担い手は、地域住民で、地域の住民で運営され、地域住民が集って学習をしたり、コミュニケーションを深めたり、地域の特色を生かし様々な専門部活動が行われている。

「ｅ－じゃん掛川」導入へ

地区集会、中央集会は１年に１度なので、仕事や用事があり参加したくてもできないため、電子地区集会が開けないか？
地域の電子交流会ができないか？ ⇨　　平成14年から検討

（平成１８年1月）
千代田地域ＳＮＳ（ちよっピー）に掛川観光情報「来て、見て掛川」・「掛川市ＩＴサポーターだより」を開設し実験。

（平成18年11月3日）
e-コミュニティ形成支援事業実証実験に参加　ｅ－じゃん掛川開始

平成18年11月３日運用開始
現在の登録数　約3,000

目指したところ
生涯学習を手助けするｅ－コミュニティ
安心安全をサポートするｅ－コミュニティ
今まで市政に参加しにくかった方の市政参加

生涯学習はまちづくり、人づくり（掛川市の生涯学習）

生涯学習は趣味の生涯学習以外に大きな目的があります。

○人間の一生が15歳や18歳の偏差値で一生が決まる。入った就職先で一生が決まるというようなことではいけない。学歴社会からの脱皮し、大器晩成社会として、人が学習をしていかなければならない。
○多様化の時代、変革の時代の中で高度情報化、地球環境問題など我々は常に好奇心をもって挑み学習しなくてはいけません。今日を生きる術を身につけるために生涯学習を行う。
○若いときから不摂生をして早々脳の血管が破れて半身不随になったり、寝たきりになったりすることは自分に対し、家族に対し、社会に対して不幸です。そういうふうにならないように若いときから健康に気をつかったり、運動をしたり、学習をしていかなければなりません。高齢化に対して生涯学習が必要です。
○そして生涯学習はまちづくりです。
自分が生まれたときよりも自分が死ぬときには良いまちにしないと死ぬ意味がないというくらいに地域に対して愛着を持って一生を終えることを大きな目標としていくこと。

地域ＳＮＳの必要性

地域ＳＮＳの必要性は生涯学習まちづくりにある。

ＳＮＳは仲間の楽しいコミュニティの場

地域ＳＮＳは、仲間の楽しいコミュニティの場でもあるが、学習の場であり、今を活きる術を身につける場であり、健康な生活を送る知恵を身につける場であり、まちづくりの場でもある。

地域活性化につながるまちづくりコミュニティ

地域生涯学習センターコミュニティ

今まで地域生涯学習センターの情報発信は、各地域生涯学習センターが、ホームページを作成して行ってきましたが、ｅ－じゃん掛川にコミュニティを作成して情報の受発信を行うことにしました。

http://e-jan.kakegawa-net.jp/c.phtml?g=150374

地域SNSは行政がもっと利用すべき！

○目指せ登録者数４千人！！
（市民総代会の１地区となるように）

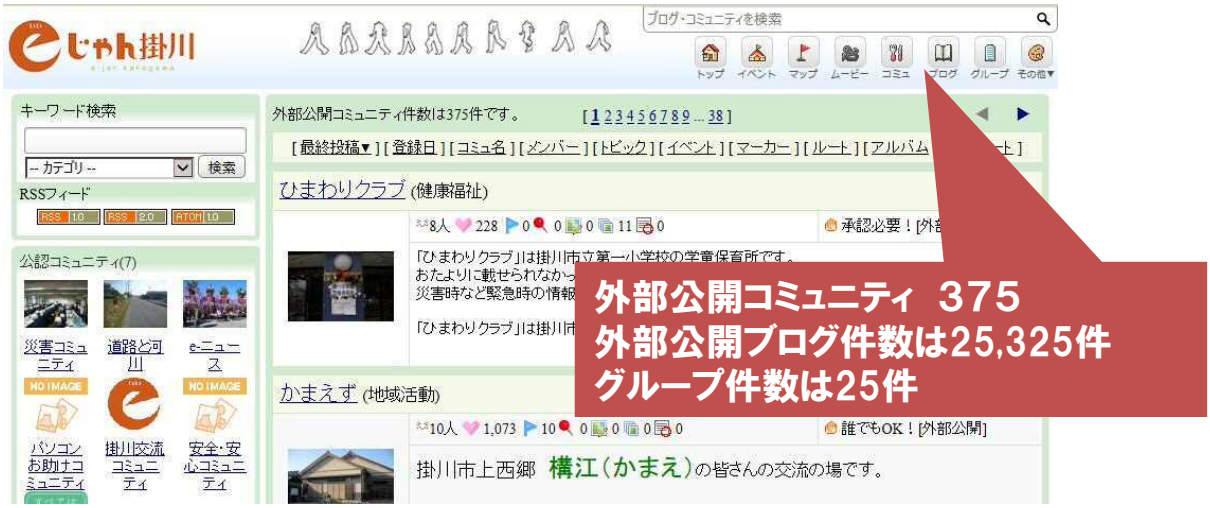
- 広報やホームページがより簡単に情報が発信できる
- パブコメ以上に市民からの良質なご意見が得られる
- アンケートが簡単にでき集計も瞬時に

○会員を増やすために

- ホームページが使えない人には内容を集約した「いいじゃん通信」を発行
- e-じゃんステーション

市民の幸せの拡大に向けて

- 早く安く便利効率を目指して
  －テレビのようなＩＣＴを目指して
- 「繋がること」を常に意識
  －情報の受発信が可能な市民が多い町を目指して
- 誰のためのＩＣＴか？
  －市長やランキングのためではない
  －市民の幸せが評価のポイント
- ＩＣＴ能力の向上で
  －心豊かなスローライフ社会の実現を！



（5） 地域SNSシステム『ひょっこむ』

ひょこむについて

「ひょこむ」は、兵庫県域をエリアとして2006年10月から運営してい
連携の地域SNSサイトです。
ひょこむは、兵庫県を舞台とした信頼と連携の「コミュニティ活動支
地域SNS」サイトです。

■　ひょこむについて
　地域コミュニティの再生が語られはじめてもう随分と経ちます。兵庫県では１９９５年１月の阪神淡路大震災で、地域のひとりひとりが支え合って命をつないだ貴重な経験から、その大切さはもちろんのこと、コミュニティの再生への可能性を体感することができました。「地域コミュニティには計り知れないほど大きな地域力が潜在している」というのが私達の意見です。眠っている能力を覚醒することができれば、震災のような不幸な災害によらずとも、きっと地域は自律的に活性化するに違いありません。
　SNSには、知らない人をつなぐだけではなく、交流を通してつながった人同士の関係性を強化するという特徴があります。私達は、SNSを上手に使ってネット上の空間と実際の地域社会とが連動する仕組みを構築できれば、いま地域から消えゆこうとしている「人の絆」を再生・強化することができるのではないかと考えました。ひょこむが目指すのは、この仕組みが生み出す人脈のつながりによって、地域社会を支えるソーシャルキャピタルが創造され、自律的にコミュニティの活性化が実現することなのです。

■　まずは登録
　招待メールに記載されている登録用のURL をクリックして、あなたのプロフィールを登録してください。
ひょこむでは、健全で信頼できるネットワークを醸成して行きたいという想いから、招待なしでの新規登録は「行えない」仕組みになっております。まだ招待メールをもらっていない方は既にひょこむに参加している人から招待メールを送ってもらうようにしてください。
必要外の個人情報までプロフィールで公開する必要はありませんが、ひょこむでは信頼できるネットワークづくりを行うために「本名」(公開/非公開)「現住所(町番地は非公開)」「連絡先(非公開)」は、必ず正しく入力して下さい。プロフィールは、まず他人が見てあなたがどんな人なのか、興味をひくような内容が簡潔にまとまっているといいでしょう。インターネットの中に、関係するHPなどがあれば、そのURLを記載しておきましょう。ときどきこまめにメンテナンスすることが、新しい知り合いを増やすコツだと言われています。

■　ひょこむで友人と交流
ひょこむでは信頼できる旧知の友人、お知り合いとのお付き合いの活性化を図ったり、一緒に地域で活動する仲間たちのグループを支援するために、
・　添付ファイルつきメッセージ機能
・　ブログ(WebLOG)の作成やコメントを加える機能
・　マップ、イベントカレンダー連動コミュニティ作成、参加機能
・　友人紹介機能
等さまざまなツールをご用意しています。

■　ひょこむなら「友人の友人」と交流ができる
さらに、ひょこむ を使えば 「友人の友人」 との交流が簡単にできます。
"よく話には出るけれど．．" といった直接は面識のない方など、どこかでつながっている新しい方々との交流を楽しむことができます。
この点が、ひょこむ がもつこれまでのウェブサービスにはない新しさです。これまでは見えなかった友人同士のつながりを、ぜひひょこむで実感してください。
ひょこむ には検索機能がありますので、あなたが会いたいと思っているような人を、「友人の友人」の中から検索することができます。そして知り合った人と仲良くなれば、その人をあなたの友人リストに加えることができます。ひょこむであなたの「友人の輪」をどんどん広げてください。

■　ひょこむに友人を招待
あなたが ひょこむ をもっと活用するために、あなたの友人をひょこむに招待してください。あなたの信頼できる友人を招待することで、あなたはよりひょこむを活用することができます。ひょこむに友人を招待するときは、次の約束を必ず守って下さい。
①実在性の確保
　実際に存在する人物であり、登録の際に「本名（非公開選択可）・住所(非公開)・連絡先（非公開）を正確にきちんと入力してくれる人。
②信頼性の確保
　前向きにコミュニティ活動の推進を考える人で、紹介者が信頼している人。
③後見人（スポンサー）制度
紹介した人が後見人となって、指導や助言を行う。トラブルが起こった場合には、協力して解決にあたること。
④参加年齢制限
　高校生（概ね15歳）以上。ただし保護者が後見人になる場合は中学生の参加は可能。

■　ひょこむで友人を紹介
ひょこむでは、旧知の友人や、ひょこむで交流が始まった方の印象や間柄をコメントできる機能をご用意しています。たくさんのユーザーがお互いを紹介しあうことで、これまでの交流がより活発になるでしょう。

■　ひょこむ の登録、利用料

■　ひょこむの特徴
「地域のソーシャルキャピタルの創造」という目的を実現するために、ひょこむは他のＳＮＳにはみられない、次のような特徴を持っています。
・実名登録制
参加される方には、登録時に実名・現住所・連絡先の記入を義務づけています。（非公開にできます）
・完全招待制
参加するには、メンバーの紹介が必要です。
・後見人（スポンサー）制
友人を招待したメンバーは後見人となり、新たに参加した方のサポートの義務があります。
・ＳＮＳプラットホームの採用
OpenSNP（Open Social Network Platform）の採用により、他の活動グループのＳＮＳとのリソース共有を行います。
・充実したコミュニティ支援機能
カレンダー、マップ、コミュニティ管理など、他のＳＮＳにはない支援機能を搭載しています。
・行政との緊密・広範な連携
広範な行政の地域施策と連携して、直接地域コミュニティにインセンティブを提供します。

■　ひょこむの運営
ひょこむの運営・管理は、兵庫県内の行政・教育・企業・ＮＰＯ・市民などの有志による協働体制のもとに行われています。ひょこむの開発・運営に関しては、どこからも資金援助の提供を受けておらず、すべての関係者とはフェアなパートナーシップを組んでいます。今後は、サイト内広告やオプション機能の提供などで、自立運営ができる体制作りを目指していく予定です。

外部公開コミュニティ　321
外部公開ブログ件数は166,536件
グループ件数は223件

OpenSNP 地域づくりの実践者から高い評価を受けているまちおこしSNS 地域活動や団体の利用にも適したグループウェア機能の優れたSNS

open SNP　眠れる地域の絆を覚醒させる活性化の切り札！
Open Social Network Platform

HOME | Open SNPの機能 | 導入事例 | 料　金 | サポート | Open SNPの体験 | サイネージ | お問い合わせ

OpenSNPは、コミュニティの人脈つながりを目覚めさせるSNSエンジンです。

OpenSNPとは？

SNSは、人と人のつながりを促進・サポートするコミュニティ型の会員制のサービスで、個人と個人を接続するものであるのに対して、OpenSNPは地域や団体の活動に活用できるグループウェアとして設計しました。
機能面では、基本的なSNS機能に加え、情報を発信者がコントロールするアクセス制御・コメント制御、地域のさまざまなニュースを判りやすく見せるマップ・イベントカレンダー連動機能、簡単にムービー登録ができる「動画配信機能」など、情報の発信・交流機能が充実しています。

住民主役の地域づくりの切り札！
地域SNS「元気村」はこう創る！

地域SNS・同窓会SNS e.t.c.

OpenSNPの特徴

SNSならエンジンはどれでも同じと思っていませんか?!

「OpenSNP」が地域づくりの実践者から抜群の評価を受けているのは理由があります！！

見える！
便利なツールや賢い機能が満載
グループ活動の利用に徹した設計で、リアル(現実社会)とバーチャル(SNS)を上手に連携、みえる仕組と活動を一気に助力してくれます。
従来のSNSにはない新しい組み立ての考え方、の関制御など安全性を重視したコミュニケーション機能も充実。

つながる！
ほどよく閉じたネットワーク
安心安全で暮らし地の良い互助関係を構築します。
参加は互いに支え合い、ゆるやかな連携を図りながら、成長しあうネットワークのデザインが育まれ、地域のソーシャルキャピタルが醸成されます。

元気になる！
誰もがわくわく楽しいSNS
連携できるネットワークを構築する「掲示板」、他のSNSとの相互連携を図り「SNS間連携」、ご縁がきわる「地域活動ポイント」、「電子メール」や「ムービー」機能など、誰もがわくわく楽しく元気になれるSNSです。
※「電子メール」と「ムービー」機能はオプション。

頼れる！
運用に必要な地域づくりのノウハウが一杯！
充実したオンラインチュートリアルだけでなく、常にエンジンを利用する全国各地のサイト関係者との連携・情報共有、そしてSNS運営のスペシャリストによる最先端の支援サポートも提供しています。
※SNS運営のスペシャリスト(オプション)は豊富な地域情報をアドバイザーによる直接支援が受けられます。
特定法人 全国地域情報化推進協会

安い！
成長にあわせてグレードアップ可能なシステム
月々3万円から立ち上げられる安価なプライス、成長すれば簡単にグレードアップできるシステム、バックアップや運用指導、バージョンアップまでトータルでの完全サポート、将来、オープンソース版への移行もできるフォロー体制で、各地の地域づくりを支援します。

(C)1996-2008 InfoMeMe Co.,Ltd. All Rights Reserved.
インフォミーム株式会社　〒670-0061 兵庫県姫路市西今宿3-6-3

V　調査を終えて-提言

1　調査結果の概括と検討課題

市民意識調査の要点

《生涯学習への認識》

① 札幌市民の55%は何らかの形で「生涯学習」に取組んでいる。

② 今後「生涯学習」に取組む意向をもつ市民は計67%で、現在よりさらに増加する可能性を示している。

③ そのうち、1/3（全体の25%相当）は「今までしていなかったが、新たに何かに取組みたい」人達である。

④ 一方、「どのようなことが生涯学習か？」に対して、多くは「趣味の活動や教養を高めること」と考え、「家庭や社会などの問題を理解し、解決方法を学ぶこと」を選択した市民は1割に留まるように、「生涯学習」の幅広さは必ずしも理解されていない。

《生涯学習取組の阻害要因》

① 現在、生涯学習に取組んでいる市民の“学習の場”は6割が「自宅」であり、講座やスクールに通っているというイメージより、遥かに緩やかな学習と見てよい。

② しかし、何らかの生涯学習に取組んでいる人も、これまで何か取り組んだが止めた人も、「困ること、止めた理由」の中心には「時間のやりくりができない」ことがある。

《生涯学習取組にあたっての情報ニーズ》

① 知りたい情報は「どのような学び方、場があるのか？」、「学ぶことが何に生かせるか？」などである。

② こうした生涯学習に関して期待する情報チャネルは「インターネット上の総合サイト」であり、「ＳＮＳ」に関しては決して多くなく、且つ若い年代に偏る懸念も把握できた。

③ 生涯学習関連情報と市民の知りたい欲求をマッチングさせる仕組みとしては、「個々の学習ニーズに応える相談機能を有する」ことを前提にした、上記のような総合サイトへの期待が大きかった。

他地域事例研究より

《ＳＮＳの活用》

① あまり多くの事例はなく、多くは生涯学習情報総合サイト（ホームページ）を補完する講座情報等の発信チャネルとしてＳＮＳを活用するに留まっている。

② その中で、兵庫県の取組『インターキャンパス・コミュニティ』は会員登録者のマイページ機能により、学習履歴、ブログ展開、会員間交流機能などＳＮＳ時代を見据えた取組の好例と言える。

③ 多くの事例から学べることは、情報流通の手法としてのＳＮＳではなく、生涯学習取組者の「生涯学習生活のサポート（履歴管理、インセンティブ等）」、「学び手同士の交流」などの目的・理念を生かしやすいＳＮＳという発想が重要という点である。

④ その他、「生涯学習への入り口」を拡げる可能性を示したものとしては、生涯学習情報総合サイト（ホームページ）に「e-ラーニング」機能を持たせた富山市の『インターネット市民塾』の取組も参考にすべきである。

⑤ この「入口を拡げる」視点に立つものとして、兵庫県『ひょっこむ』など多くの地方団体が導入している地域ＳＮＳサイト（OpenSNP/ｲﾝﾌｫﾐｰﾑ社提供）も注目してよい。生涯学習を地域コミュニティ活動のひとつとして連携させる理念を前提に、その活動をしやすくする手法がＳＮＳであった…との論理こそ学ぶべきものと考える。

2 提　言

■ この調査・研究の主テーマは『札幌市における生涯学習を巡る情報収集、発信手法の検討』であり、前項の市民意識や、他地域事例、さらには有識者等の提起をふまえ、下記のように提言する。

（1）市民への啓蒙･啓発の視点

① 「生涯学習」の入口を拡げる啓蒙・啓発

- 「生涯学習」とは“日常の生活意識”が原点であることを示すことが大切です。

－ほんの少し便利に、実は私は知っている、私の考えは共感された、少しだけ話せた…こうした、小さな思いを土台にした行動こそ、知へのニーズなのであり、それこそが“学ぶ”ことであるとの認識を市民に広げる広報（啓蒙・啓発）活動が期待されます。

② キーワードの「学び直し」について

- あたかも“学びのやり直し”を想起させる「学び直し」との表現は再考されるべきと考えます。市民が生活の中で新たに芽生えさせる知識欲、知恵欲、行動欲などは、個々が積み上げてきた「知」に上乗せされて生活を豊かにするものであり、それは「学び増し」と言えるのです。札幌方式としての生涯学習推進の第一歩は、「学び直し」から「学び増し」へのキーワードの転換にあります。

（2）既存の総合情報システムの拡充

札幌市生涯学習センター「ちえりあ」ホームページの拡充

- 「ちえりあ」のホームページは、札幌市における生涯学習総合ポータルサイトの機能を担っていますが、生涯学習情報交流機能としては充分なものとはいえません。
- 他地域における状況をふまえ、下記の点での拡充が検討されるべきです。
  - 講座を知る　⇒＜誰向け＞＜時間・曜日＞＜ジャンル＞などの検索や絞り込み機能が弱い
  - 講師登録　　⇒多くの他地域では講師登録機能が整備されています
  - 講座登録　　⇒講座等の主催者が自ら情報登録を可能とする機能（迅速な情報提供）
  - E-ラーニング⇒在宅学習支援機能
  - 講座公開　　⇒ちえりあ主催講座等の動画、レジュメ・テキストの配信機能
  - 会員制度　　⇒会員交流、生涯学習支援（学習履歴管理機能など）
  - リンク豊富化⇒市内にある他の生涯学習機関等との情報リンク・相互乗り入れ化　　など
- 「ちえりあ」ホームページは、ハード（施設）側からの情報発信と併用されていることから、多くの制約はあると思われるが、生涯学習総合情報システムの在り方からの拡充策について具体的な検討が期待されます。

（3）生涯学習取組者のつながりづくり

「ちえりあ」ホームページから派生させる会員ＳＮＳの展開

- 「ちえりあ」のホームページに“集う”市民に対し、生涯学習支援、仲間づくりの場として、ＳＮＳ版「ちえりあネット（仮称）」の創設を提起します。
- 基本機能は、登録会員の履歴管理、最適講座の配信などの学習支援です。さらに、公開ブログ、仲間づくりコミュニティなどの機能を持たせ、「市民の自発的な取組」支援＝草の根講座などの多発を促進するのです。
- このＳＮＳとしては、先に紹介した地域コミュニティの視点から生涯学習を位置付ける「地域ＳＮＳ」発想を参考にすべきと考えます。

（4）他の媒体との連携、分担による行動喚起

地域ＦＭ局の挑戦に学ぶ

- 三角山放送局は高齢者を中心に「在宅パーソナリティ」の試行を行っていた。地域内高齢者の有する知見、経験、趣味などを地域コミュニティ内の“情報・知恵”として生かす、或いは高齢者の地域参加の場を作りだす、真の“日常にある生涯学習の仕組み”と言えるものです。市内地域ＦＭ局がもつ情報チャネルとしての可能性は大きいと考えます。

紙（印刷）媒体の底力を活かす

- 中高齢層では未だに紙（印刷）媒体の有用性を感じています。先に挙げた「ちえりあ」ホームページやＳＮＳなども、そこにアクセスしていただかなければ、何の機能も発揮できません。
- 「生涯学習」に関して、敷居を低く、間口の広い啓蒙・啓発、具体的な情報探査への誘導などの機能においては、更に多くの広報誌・紙の活用が期待されます。

「生涯学習」広報戦略（仮称）策定へ

本調査・研究の成果を引き継ぐ

- 今回の調査・研究においては、これまで知見できなかった市民の生涯学習に係る情報ニーズ等が把握され、他地域の情報提供システムの一端も把握できました。
- また、調査結果の検討から、今後の広報（啓蒙・啓発）、生涯学習支援情報機能等整備などの展開に際しては、生涯学習の在り方を含めた総合的視点に立ち、且つ、体系的な戦略性のある仕組み構築が重要との結論を示しています。

「札幌市生涯学習広報戦略（仮称）」の策定

- 本調査・研究の成果を引き継ぐため、早急に「中期的視点にたつ戦略的広報」策定を準備すべきです。
- そこでは、新たな情報システム（ＩＣＴ）やデバイス（情報端末）などを前提に、いかなる情報の受発信、蓄積、交流をもたらす仕組みづくり。
- さらには、市民の生涯学習意欲を喚起し、行動へと駆り立てる広報上の組み立て（メディア連携、訴求の方向など）を３～５年程度のロードマップとして描き出すべきと考えます。